

2026年度

授業計画

理学療法学科

長崎医療技術専門学校

本書の利用にあたって

本書は、受講者が学習の流れを理解し、円滑に講義を受けられるようになることを目的としています。分野は「基礎」「専門基礎」「専門」に分かれ、さらにそれぞれの分野の「ねらい」「科目」「内容（キーワード）」を掲載しています。開講される科目について各講義の概要や講師からの要望、各回講義内容、使用するテキストならび参考書、単位取得にあたっての評価の方法を記載していますので受講前に十分に熟読し、学習の計画に役立ててください。

また、本書は本校の教育内容を広く社会に公開するものです。受講者が将来さらなる進学や編入学の際に、本校で受けた講義の内容を証明するものとして利用できる可能性もありますので、今後も大切に保管してください。

本書が受講者の自主的な学習に役立つものになるとともに、本校にとっても教育活動を点検・評価し、良き学校教育へつながるものとして大いに活用されることを望みます。

教務委員会

理学療法学科

<1年生 前期科目>

- 行動科学
- 医療倫理学
- 運動学総論
- 研究方法論
- 医学英語
- 文章表現法
- コミュニケーション学
- スポーツ・レクレーション演習
- 医療基礎 I
- 解剖学 I
- 生理学 I
- 生理学 II
- 運動学 I
- 社会福祉論
- リハビリテーション概論
- 理学療法概論 I
- 理学療法評価学 I
- 日常生活活動 I

<1年生 後期科目>

- 医療基礎 II
- 解剖学 II
- 生理学 III

- 運動学 II
- 人間発達学
- 臨床心理学
- 病理学概論
- 内科学 I
- 整形外科学 I
- 神経内科学 I
- 精神医学総論
- 小児科学
- 外科学
- 脳神経外科学
- 理学療法概論 II
- 理学療法評価学 II
- 物理療法 I
- 臨床実習 I

<2年生 前期科目>

- 解剖学 III
- 解剖学演習
- 運動学 III
- 内科学 II
- 整形外科学 II
- 神経内科学 II
- 臨床医学 I

○運動療法総論

○理学療法評価学Ⅲ

○理学療法評価学演習

○物理療法Ⅱ

○義肢装具学Ⅰ

○日常生活活動Ⅱ

○地域理学療法学

○生活環境論

< 2年生 後期科目 >

○画像診断学

○臨床医学Ⅱ

○臨床運動学

○運動生理学演習

○理学療法管理学Ⅰ

○中枢疾患運動療法Ⅰ

○中枢疾患運動療法Ⅱ

○内部疾患運動療法

○神経筋疾患運動療法

○小児疾患運動療法

○整形疾患運動療法

○スポーツリハビリテーション

○義肢装具学Ⅱ

○総合学習Ⅰ

○総合治療論Ⅰ

○臨床実習Ⅱ

< 3年生 科目 >

○理学療法管理学Ⅱ

○総合治療論Ⅱ

○総合学習Ⅱ

○総合学習Ⅲ

○地域リハビリテーション論

○臨床実習Ⅲ

○臨床実習Ⅳ

[教育目標] 授業のねらいと内容

理学療法学科 (PT)

分野	ねらい	科目	内容 (キーワード)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	行動科学	人間の行動, ころころや適応, 発達や学習の仕組みなど
		医療倫理学	医の倫理を学び, 法的観点から医療と福祉の問題点を考える
		運動学総論	運動器の基本的な構造と機能について学習する
		研究方法論	研究に必要なデータ集約と処理方法について学ぶ
		医学英語	医学生物分野のテキストで実践的な英文読解力を身につける
		文章表現法	日本語力を会得し, 表現伝達する能力を養う
		コミュニケーション学	自分の特性を知り, 他人を理解し, コミュニケーションスキルを学習する
		スポーツ・レクリエーション演習	健康増進と維持をしながら, スポーツを通して学生間の交流を深める
		医療基礎 I・II	社会人・医療人として必要な能力を身につける
専門 基礎	人体の構造と機能 および心身の発達	解剖学 I	正常な人体と構造について理解する
		解剖学 II	人体諸器官の正常構造を関連する機能を含め理解する
		解剖学 III	人体の構造や機能について, 系統的に理解する
		解剖学演習	人体諸器官の正常構造と機能を学び, 標本で理解を深める
		生理学 I	循環, 呼吸などのメカニズムを理解する
		生理学 II	運動制御の神経学的基礎や感覚機能のメカニズムを理解する
		生理学 III	代謝, ホルモン, 自律神経などのメカニズムを理解する
		運動学 I	人体の基本構造と運動の仕組みを理解する
		運動学 II	運動学 I の内容に演習を含み更に深める
		運動学 III	臨床に必要な運動学, 動作分析を学ぶ
		人間発達学	ヒトの成長について各段階の発達の概要を理解する
		臨床心理学	心身障害者との接し方, 臨床心理の歴史, 心理面接や心理テスト
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進	病理学概論	感染や先天異常, 代謝や循環障害, 炎症など疾患の成り立ち
		内科学 I	臓器別及び系統的疾患の病態, 症候, 診療について学ぶ
		内科学 II	消化器及び系統疾患の病態, 症候, 診療を理解する
		整形外科 I	骨・関節の疾患と治療法を学ぶ
		整形外科 II	整形外科疾患の診断, 治療, リハビリなどを学ぶ
		神経内科学 I	脳神経の機能と障害を知り, その所見を理解する
		神経内科学 II	脳血管疾患, 感染性疾患等を学ぶ
		精神医学総論	ひとの精神機能と各種精神疾患の特徴や治療法を理解する
		小児科学	成長と発達, 栄養, 小児保護, 小児の疾患について理解する
		外科学	外科の歴史と特徴, 無菌法, 損傷, 腫瘍, 輸血, 臓器移植等を知る
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	脳神経外科学	神経系の臨床解剖, 頭蓋内圧亢進, 脳血管障害, 脳腫瘍, 頭部外傷	
	画像診断学	放射線の種類と性質, 人体への影響, 治療法について理解する	
	臨床医学 I	救急症候の対応や皮膚科の疾患などを学ぶ	
	臨床医学 II	栄養学や薬理学, 泌尿器領域の疾患などを学ぶ	
	社会福祉論	社会福祉の考え方や歴史, 社会福祉技術の実践について理解する	
	リハビリテーション概論	目的や歴史, 他職種の役割, 社会保障制度について学ぶ	

		地域リハビリテーション論	地域包括ケアシステムや多職種連携の理解を深める。	
専門	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	理学療法の全体像を理解し、その資質についても考える	
		理学療法概論Ⅱ	理学療法概論Ⅰを踏まえて、理学療法をより具体的に理解する	
		臨床運動学	正常運動をもとに臨床での患者治療の立場から運動を理解する	
		運動生理学演習	三次元動作解析、筋機能解析など評価測定機器の活用を学ぶ	
		運動療法総論	運動療法の基礎を理解し、基本的な運動療法を体験する	
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	理学療法に関わる組織、法律、マネジメントなどを学ぶ	
		理学療法管理学Ⅱ	理学療法に関わる組織管理などを臨床現場の実践例を学ぶ	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	評価の意義を考えながら可動域など基本的な評価技術を習得する	
		理学療法評価学Ⅱ	前期同様に意義を考えながら筋力評価法を身につける	
		理学療法評価学Ⅲ	扱う各種評価について意義を理解し、その方法を身につける	
		理学療法評価学Ⅳ	画像診断や各疾患における臨床推論を学ぶ	
		理学療法評価学演習	臨床現場での見学や体験を通し、理学療法評価技術を学ぶ	
	理学療法治療学	中枢疾患運動療法Ⅰ	脳血管障害に対する運動療法を理解する	
		中枢疾患運動療法Ⅱ	パーキンソン病、失調症に対する運動療法を理解する	
		内部疾患運動療法	呼吸器や循環器系の疾患に対する運動療法を理解する	
		神経筋疾患運動療法	神経筋疾患に対する運動療法を理解する	
		小児疾患運動療法	脳性麻痺を中心に小児整形疾患に対する運動療法を理解する	
		整形疾患運動療法	代表的な整形疾患に対しての運動療法を理解する	
		スポーツリハビリテーション	スポーツ外傷・障害に対するリハビリについて理解を深める	
		物理療法Ⅰ	温熱療法、寒冷療法、光線療法、電気療法、水治療などを学ぶ	
		物理療法Ⅱ	生理学的知識に加えリスク・機器管理について学ぶ	
		義肢装具学Ⅰ	体幹や上下肢の装具について理解する	
		義肢装具学Ⅱ	実際に装具を製作し、装着しながら理論とその選択を学ぶ	
		日常生活活動Ⅰ	概念、基本動作、複合動作、評価、と基本的指導方法を理解する	
		日常生活活動Ⅱ	疾患の特徴に応じた正常と異常を比較した動作分析を学ぶ	
		総合治療論Ⅰ	2年生の臨床実習で必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ	
		総合治療論Ⅱ	3年生の臨床実習で必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ	
		総合学習Ⅰ	3年生の研究論文への準備段階として抄読や症例研究を行う	
		総合学習Ⅱ	国家試験に必要な専門基礎知識、専門知識を繰り返し学ぶ	
		総合学習Ⅲ	アクティブラーニングを通して、主体的に専門知識を学ぶ	
		地域理学療法学	地域理学療法学	歴史と現状、考え方と定義、諸サービスについて考える
			生活環境論	障害者の生活環境や周辺環境について理解を深める
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	臨床現場の見学を通してセラピストの役割等を理解する	
臨床実習Ⅱ		評価実習として知識・技術を対象者に実践・応用する力を習得		
臨床実習Ⅲ		診療チームに参加し、職業的な知識、思考法、技能、態度の基本を学ぶ		
臨床実習Ⅳ		訪問・通所リハビリテーションなどの通して、地域での活動を学ぶ		

その他（正規科目外）

学科	科目	内容
PT・OT	国試対策	国家試験に向けた学習の場とする
PT・OT	実習対策	実習対策として講義を受講したりグループを組み課題を挙げて学習する
PT・OT	班別学習	国家試験に向けて班別で学習活動を行う
PT・OT	個人課題学習	実習対策として個人で課題を決めて学習に取り組む場とする

理学療法学科 1年生 前期

授業科目	行動科学					
担当者	長尾 博	所 属				
実務経験者の概要	実務経験(無) 1978年から現在まで48年間さまざまな大学で「心理学」を教える					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	現在では心理学は心理学といわず、科学としての行動科学という。行動科学のさまざまな分野を概説し、行動科学の広さを知ってもらいたい。
到達目標	血液型で性格がわかる、心理学は読心術、心理学者は皆カウンセラーという誤解をとき、客観的な科学としての行動科学を学ぶ。
学生への要望	想定した心理学と大きく異なる行動科学を理解し、少しでも患者さんの行動を客観的にとらえられることを期待している。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	心理学の歴史（心理学は他の学問より新しい）	長尾 博
第2回	講義	心理学は科学になるか	長尾 博
第3回	講義	感覚と知覚（錯覚、幻覚、UFOをみたことの解釈）	長尾 博
第4回	講義	認知と思考（東大生はなぜノーベル賞がとれないか）	長尾 博
第5回	講義	生理の心理学（心と身体は1つなのか）	長尾 博
第6回	講義	学習の心理学（模倣は学習の基本）	長尾 博
第7回	講義	学習の心理学（記憶はイメージ、失恋は忘却しやすい）	長尾 博
第8回	講義	発達心理学（3つ子の魂は100まで）	長尾 博
第9回	講義	発達心理学（ヒトは熟して死んでいく）	長尾 博
第10回	講義	社会心理学1（1対1の対人関係とは）	長尾 博
第11回	講義	社会心理学2（3人以上の人間関係、トラブルの原因）	長尾 博
第12回	講義	パーソナリティの心理学（ヒトの性格は明確にはわからない）	長尾 博
第13回	講義	犯罪心理学（日本にはない学問としての心理学、長崎と犯罪の頻度）	長尾 博
第14回	講義	臨床心理学（心理学の学問としての水準）	長尾 博
第15回		まとめ	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	心理学-心と行動の科学-（資料） 長尾 博
参考資料	

授業科目	医療倫理学					
担当者	福崎 博孝	所 属	弁護士法人ふくざき法律事務所			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医療界のインフォームド・コンセントに関する知識や認識を深め、その背景をなす患者等の自己決定権の意味するものを知り、終末期医療における患者・家族との向き合い方を知り、ペイシエントハラスメント等のハラスメント被害の実態とその対策を知ること。
到達目標	医療の分野におけるトラブルの実態を知り、医療従事者が備えるべきその解決に資する法的な知識を習得すること。
学生への要望	医療や福祉の領域における患者や家族、高齢者・障害者との意思の疎通の回り方(コミュニケーションのとり方、インフォームド・コンセントの在り方)を知って欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント (その 1)	福崎 博孝
第 2 回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント (その 2)	福崎 博孝
第 3 回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント (その 3)	福崎 博孝
第 4 回	講義	医療の現場におけるインフォームド・コンセント (その 4)	福崎 博孝
第 5 回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定 (その 1)	福崎 博孝
第 6 回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定 (その 2)	福崎 博孝
第 7 回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定 (その 3)	福崎 博孝
第 8 回	講義	人生最終段階における医療行為と患者の意思決定 (その 4)	福崎 博孝
第 9 回	講義	医療紛争を未然に防ぐために－患者・家族との向き合い方 (その 1)	福崎 博孝
第 1 0 回	講義	医療紛争を未然に防ぐために－患者・家族との向き合い方 (その 2)	福崎 博孝
第 1 1 回	講義	医療紛争を未然に防ぐために－患者・家族との向き合い方 (その 3)	福崎 博孝
第 1 2 回	講義	ペイシエントハラスメント対策－患者・家族との向き合い方	福崎 博孝
第 1 3 回	講義	パワーハラスメント対策－パワハラ加害者にならないために(その 1)	福崎 博孝
第 1 4 回	講義	パワーハラスメント対策－パワハラ加害者にならないために(その 2)	福崎 博孝
第 1 5 回	講義	まとめ	福崎 博孝

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	各種テーマの各資料 (事前配布)
参考資料	

授業科目	運動学総論					
担当者	鍵山 嘉史	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 回復期リハビリテーション病棟を持つ病院で作業療法士として勤務した経験を持つ。主に脳血管疾患と整形疾患患者への評価・治療の経験をもとに講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学年	1年	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15時間	

<内 容>

授業の概要	運動器の基本的な構造と機能について学習し、四肢体幹の運動や動作分析といった応用的な知識につなげる足掛かりを作る。また、生体力学の基礎を併せて理解することで、複雑な動作機構の学習に備える。
到達目標	身体運動の面と軸を学習し、運動の時間的、空間的変化の定義を理解する。筋収縮の特徴や関節の力学的有利性を理解して身体の機能、動作へ応用をイメージすることができる。
学生への要望	併行して学習する解剖学や生理学とあわせて、毎回の講義で説明する学習範囲の全体像を掴んでほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	身体運動の面と軸	鍵山 嘉史
第2回	講義	回転運動	鍵山 嘉史
第3回	講義	筋力と重力	鍵山 嘉史
第4回	講義	モーメント	鍵山 嘉史
第5回	講義	身体とてこ	鍵山 嘉史
第6回	講義	運動器の構造と機能①	鍵山 嘉史
第7回	講義	運動器の構造と機能②	鍵山 嘉史
第8回	講義	まとめ	鍵山 嘉史

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一 基礎運動学 第7版	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	研究方法論					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	Microsoft Office365 または、Googleworkspace を使用し、ファイル・フォルダの管理、文書作成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表資料作成等、学習に必要な ipad 操作スキルを学習する。さらに、セキュリティと情報モラルの基礎を学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ipad 上におけるファイル管理およびクラウド上の保存域の概念を理解し操作できる。 ・ 文書作成ソフトを使用し、見やすく体裁の整った文書やレポートを作成できる。 ・ 表計算ソフトを使用し、数式や書式設定を応用した表やグラフを作成・操作できる。 ・ プレゼンテーション資料作成ソフトを使用し、簡単な発表用スライドを作成できる。 ・ セキュリティと情報モラルの一般的な事例における、適切な対応/対策を理解し各自の ID、メールアドレスおよびそれぞれのパスワードの管理ができる。 ・ リハビリテーション職として研究に対する必要性を理解し、医療倫理学を学ぶ。 ・ 研究に対する簡単な手順を理解し、文献検索ができる。
学生への要望	様々な授業で使用するデバイス操作の学習となるため、積極的に参加してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	本校におけるタブレット利用に関する規定について。Google アプリ利用開始 (アドレス/パスワード設定)。学習支援アプリ (Goodnotes など) の利用開始。 ネットリテラシーについて①	林 勇一郎
第 2 回	講義	ネットリテラシーについて②	林 勇一郎
第 3 回	講義	PC スキル① スライド作成	林 勇一郎
第 4 回	講義	PC スキル② 表計算とグラフ作成	林 勇一郎
第 5 回	講義	PC スキル③ 文書作成	林 勇一郎
第 6 回	講義	文献検索の方法 (Google Scholar を用いた検索)	林 勇一郎
第 7 回	講義	研究デザインの種類と特徴	林 勇一郎
第 8 回	講義	医療統計法の基礎知識と実際	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	提出課題 30%	演習課題 (小テスト) 70%
------------	----------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医学英語					
担当者	柴田 恭明	所属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験（無）					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医学英会話テキストを資料として、臨床で有用な英会話の基礎を学ぶと共に、各ユニットのテーマである症状を誘発する機序や疾患について理解する。
到達目標	基本的な専門用語を理解し、患者と英語で簡単な会話ができる。
学生への要望	外国語の修得に有効な方法は「書く」、「聴く」、「話す」ことです。この3つのうち「書く」ことについて予習して頂きます。具体的には、A4用紙（罫線入り、白紙、どちらでも構いません）を準備し、中央に定規で縦線を引き、左に講義テキストの英語、右にその和訳を記載したレポートを作成し、講義終了後に提出して下さい。日常生活でも役立つ内容なので是非興味をもって取り組んで下さい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
		授業では、各ユニットのリスニング、単語や文法の説明をしたのち、二人一組となり、テキストに沿って実際に会話をして頂きます。	
第1回	講義	Fever 発熱	柴田 恭明
第2回	講義	Anemia 貧血	柴田 恭明
第3回	講義	Dehydration 脱水症	柴田 恭明
第4回	講義	Obesity 肥満	柴田 恭明
第5回	講義	Headache 頭痛	柴田 恭明
第6回	講義	Chest Pain 胸痛	柴田 恭明
第7回	講義	Cough 咳	柴田 恭明
第8回	講義	Abdominal Pain 腹痛	柴田 恭明
第9回	講義	Dysphagia 嚥下障害	柴田 恭明
第10回	講義	Hearing Loss 聴力障害・難聴	柴田 恭明
第11回	講義	Fracture 骨折	柴田 恭明
第12回	講義	Pregnancy 妊娠	柴田 恭明
第13回	講義	応用問題	柴田 恭明
第14回	講義	応用問題	柴田 恭明
第15回	講義	まとめ	柴田 恭明

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	日本医学英語教育学会 編 総合医学英語テキスト step1 メジカルビュー英和中辞典（電子辞書でも可） 研究社

授業科目	文章表現法					
担当者	小松 直斗	所 属	長崎玉成高等学校			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	文章を書く上で必要とされる力は、語彙力・表現力・論理力である。語彙力が無ければ自身の考えを頭の中で組み立てることができず、表現力がないと相手には伝わらない。論理性を以て人は自身の考えを相手へ届ける。本講座では、学校生活のみならず、一般社会で生活していく上で困らない程度の基礎・三種の育成を行う。
到達目標	読み手にとって読みやすい文章表現、わかりやすい文章表現を用いて、文章を書くことができる。
学生への要望	言葉は出会わないと覚えようがない。本講座で出会う初見の語句は、必ず意味を押さえ、覚えること。覚えるだけでなく、日常の会話で用いることで初めて自身の語彙となる。しっかりと小テストの対策はもちろん、復習から実践までを意識すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション・基礎力テスト	小松 直斗
第 2 回	講義	自己紹介文・他者紹介文を書こう	小松 直斗
第 3 回	講義	フレーム質問とスコープ質問	小松 直斗
第 4 回	講義	語彙力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 5 回	講義	語彙力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 6 回	講義	語彙力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 7 回	講義	表現力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 8 回	講義	表現力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 9 回	講義	表現力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 1 0 回	講義	表現力を高めるトレーニング④	小松 直斗
第 1 1 回	講義	論理力を高めるトレーニング①	小松 直斗
第 1 2 回	講義	論理力を高めるトレーニング②	小松 直斗
第 1 3 回	講義	論理力を高めるトレーニング③	小松 直斗
第 1 4 回	講義	まとめ・定期考査対策等	小松 直斗
第 1 5 回	講義	まとめ (定期試験の実施)	小松 直斗

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% 課題への取組み 20%
------------	----------------------

<教科書および参考書>

教科書	岸 健治	テスト式 国語常識の総演習 修訂三版増補	啓隆社
参考資料			

授業科目	コミュニケーション学					
担当者	牧山 美穂・他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	理学療法学科	学年	1年	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	人と接する際には、まず自分の特性を知ること、他者の対人パターンの在り方を理解することが大切である。その上でコミュニケーションを取る時に必要となる基本的なマナーやコミュニケーションスキルについて学習する。
到達目標	臨床場面で対象者とのコミュニケーションにおいて各種のスキルを想起でき、用いる事ができる。
学生への要望	積極的に学ぶ姿勢を持つ。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	コミュニケーションとは	牧山
第2回	講義	自己概念及び自己評価①	牧山
第3回	講義	自己概念及び自己評価②	牧山
第4回	講義	効果的なコミュニケーションスキル①	牧山
第5回	講義	効果的なコミュニケーションスキル②	本多
第6回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション①	牧山
第7回	講義	社会人のマナーとしてのコミュニケーション②	牧山
第8回	講義	臨床で役に立つコミュニケーション	本多
第9回	講義	表現方法①	牧山
第10回	演習	表現方法②	本多
第11回	演習	表現方法③	牧山・本多
第12回	演習	ディベート①	本多
第13回	演習	ディベート②	本多
第14回	演習	ディベート③	本多
第15回	講義	まとめ	牧山・本多

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 活動点 10%
------------	------------------

<教科書および参考書>

教科書	資料配布		
参考資料	澤 俊二	コミュニケーションスキルの磨き方	医歯薬出版
	山口美和	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	医学書院

授業科目	スポーツ・レクレーション演習					
担当者	渡邊正之・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 精神分野の病院にて作業療法を行い、主に統合失調症・うつ病・認知症・神経症性障害のリハビリテーションを担当していた。臨床での経験や実務内容疾患の特性などを講義で話していきたい。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	医療・介護分野やスポーツ領域に限らず、健康寿命を延ばすために様々な運動療法が積極的に行われてきている。PT・OT として運動療法指導や地域活動等で活動することが多くなることを見越して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などを学んでいく。また、運動を通して学生間の交流や自己の役割を認識し行動することを育む。
到達目標	学生自身の健康増進と維持および演習を通して集団指導における概念やリスク管理、工夫点などの習得。
学生への要望	学生自身の健康増進と維持、学生間の交流を深める目的でもあるため、積極的に活動してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	オリエンテーション	渡邊、白石
第 2 回	演習	運動器の機能向上プログラム	渡邊、白石
第 3 回	演習	健康増進を目的とした集団指導	渡邊、白石
第 4 回	演習	スポーツ現場における集団指導①	渡邊、白石
第 5 回	演習	スポーツ現場における集団指導②	渡邊、白石
第 6 回	演習	集団レクリエーション①	渡邊、白石
第 7 回	演習	集団レクリエーション②	渡邊、白石
第 8 回	講義	まとめ	渡邊、白石

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 1 0 0 %
------------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	

授業科目	医療基礎 I					
担当者	本多 奨平	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	学則を学び、「医療」を学ぶ準備をする。
到達目標	1. 本校における学則や学習の規定を理解する 2. 社会人・医療人となるうえで必要な倫理やマナーを理解する 3. 医療従事者を目指す者の心得を理解し、理学療法士として立志する
学生への要望	目標とする理学療法士像をもとに自分を変えていく努力をすること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	学則や学習に関する規定	本多 奨平
第 2 回	講義	入学前課題の振り返り①	本多 奨平
第 3 回	講義	入学前課題の振り返り②	本多 奨平
第 4 回	講義	生活安全指導、市民生活・自治振興について	本多 奨平
第 5 回	講義	学習への取り組み方①	本多 奨平
第 6 回	演習	学習への取り組み方②	本多 奨平
第 7 回	講義	社会人・医療人としてのマナー	本多 奨平
第 8 回	講義	SNS のモラルやマナー	本多 奨平
第 9 回	講義	施設見学準備①	本多 奨平
第 1 0 回	演習	施設見学準備②	本多 奨平
第 1 1 回	講義	施設見学まとめ①	本多 奨平
第 1 2 回	講義	施設見学まとめ②	本多 奨平
第 1 3 回	講義	学習の振り返り①	本多 奨平
第 1 4 回	講義	学習の振り返り②	本多 奨平
第 1 5 回	講義	ゲートキーパー養成講座、消費者センター出前講座	本多 奨平

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	竹内修二 解剖トレーニングノート	医学教育出版社
	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
参考資料	学生便覧、2026 年度授業計画	

授業科目	解剖学 I					
担当者	林 勇一郎	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて肉眼解剖学の立場から解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学は医学の最も基礎的な分野であり、専門科目を学ぶ上で不可欠である。先ず、人の身体がどのように組み立てられているのか興味を持って頂きたい。多くの量を学ぶことになるが、日々の積み重ねで克服できるものであり、努力に勝る道はないと考えてほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	解剖学概論、骨学総論①	林 勇一郎
第 2 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）①	林 勇一郎
第 3 回	講義	骨格系（上肢帯骨・自由上肢骨）②	林 勇一郎
第 4 回	講義	骨格系演習①（上肢帯骨・自由上肢骨）	林 勇一郎
第 5 回	演習	骨格系演習②（上肢帯骨・自由上肢骨）	林 勇一郎
第 6 回	演習	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）①	林 勇一郎
第 7 回	講義	骨格系（下肢帯骨・自由下肢骨）②	林 勇一郎
第 8 回	演習	骨格系演習①（下肢帯骨・自由下肢骨）	林 勇一郎
第 9 回	講義	骨格系演習②（下肢帯骨・自由下肢骨）	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	骨格系演習（上下肢まとめ）	林 勇一郎
第 1 1 回	演習	骨格系（脊柱・胸部）	林 勇一郎
第 1 2 回	演習	骨格系演習（脊柱・胸部）	林 勇一郎
第 1 3 回	演習	骨格系（頭蓋）	林 勇一郎
第 1 4 回	講義	骨格系演習（頭蓋）	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	骨格系まとめ	林 勇一郎
第 1 6 回	講義	筋学総論	林 勇一郎
第 1 7 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）①	林 勇一郎
第 1 8 回	講義	筋系（上肢帯・上肢）②	林 勇一郎
第 1 9 回	講義	筋系（上肢）①	林 勇一郎
第 2 0 回	講義	筋系（上肢）②	林 勇一郎
第 2 1 回	講義	筋系（上肢）③	林 勇一郎
第 2 2 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）①	林 勇一郎
第 2 3 回	講義	筋系（下肢帯・下肢）②	林 勇一郎
第 2 4 回	講義	筋系（下肢）①	林 勇一郎
第 2 5 回	講義	筋系（下肢）②	林 勇一郎

第26回	講義	筋系（下肢）③	林 勇一郎
第27回	講義	筋系（上下肢まとめ）	林 勇一郎
第28回	講義	筋系（表情・咀嚼筋）	林 勇一郎
第29回	講義	筋系（体幹）①	林 勇一郎
第30回	講義	筋系（体幹）②	林 勇一郎
第31回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	平田幸男	分冊 解剖学アトラス I	文光堂
		ヒューマン・アナトミー・アトラス 2023 (iPad アプリ)	
	坂井 建雄	プロメテウス解剖学・コアアトラス (電子版)	医学書院
	竹内修二	解剖学トレーニングノート第7版	医学教育出版社
参考資料	分担 解剖学 1.2.3	小川鼎三・他	金原書店

授業科目	生理学 I					
担当者	松本逸郎	所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員			
実務経験者の概要	実務経験(無) 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年生	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	人体の個々の臓器は液性因子と神経因子を介して調節され、中枢神経系が統合的に支配調節することでその機能が発揮する。ヒトを取り巻く外的と内的環境は絶え間なく変化するので臓器レベルに止まらず、中枢神経系の各階層でより精度の高い調節をうけ環境の変化に適応し、恒常性が保たれる。本講は生理学Ⅲ（後期開講）と連動して、血液、自律神経、心臓・循環器、呼吸機能の構造と機能を関連づけた生体恒常性の精妙な調節機序を学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士として専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけること。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義単元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	生理学の概要(主な臓器の主要な機能を紹介する)	松本逸郎
第 2 回	講義	血液 I : 血液の構成。赤血球の構造と役割、Hb と酸素の乖離曲線	松本逸郎
第 3 回	講義	血液 II : 白血球、血小板の役割	松本逸郎
第 4 回	講義	血液 III : リンパ球、骨髄幹細胞	松本逸郎
第 5 回	講義	血液 IV : 血漿、血漿蛋白、凝固と線溶、血液型	松本逸郎
第 6 回	講義	循環 I : 固有筋、特殊筋、心筋の電氣的／機械的特性、神経調節	松本逸郎
第 7 回	講義	循環 II : 細胞膜と膜電位、イオンチャンネル、静止電位、活動電位	松本逸郎
第 8 回	講義	循環 III : 心周期、心電図、心機図（心音、脈波、心内圧曲線）	松本逸郎
第 9 回	講義	循環 IV : 血管の種類と構造の特徴、肺循環と体循環、微小循環	松本逸郎
第 10 回	講義	循環 IV : 血圧の神経調節と液性調節、中枢神経系による循環調節	松本逸郎
第 11 回	講義	呼吸 I : 肺と気道の構造と働き	松本逸郎
第 12 回	講義	呼吸 II : 呼吸運動とその調節	松本逸郎
第 13 回	講義	呼吸 III : ガス交換、閉塞性疾患と拘束性疾患	松本逸郎
第 14 回	講義	呼吸 IV : ガス (O ₂ と CO ₂) の運搬	松本逸郎
第 15 回	講義	総括 : まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第 5 版	メディカ出版
参考資料	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
	坂井建雄 系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	医学書院

授業科目	生理学Ⅱ					
担当者	中畑泰和、樽見 航	所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	<p>実務経験(無)</p> <p>【講義】 担当者は2名とも、長崎大学医学部生に対して、神経科学に含まれる事象について、そのメカニズムを重要視しながら、細胞レベル、分子レベルの理解を促す講義経験を有している。</p> <p>【実習】 講義経験と同様に、人体を用いた神経、筋の興奮状態の測定や感覚系および中枢を介した反応測定について筋電図測定機器や脳波、脳血流測定機器を用いた臨床に即した指導経験を有している。</p>					
学科名	理学療法学科	学 年	1年生	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	本講義は、運動制御機構における神経学的基礎についての理解を養うことを主たる目的としている。講義では、神経生物学の基礎事項に始まり、主に運動制御を司る神経メカニズムについて概説する。これに加え、感覚機能や、情動・思考などの高次精神機能を司る神経メカニズムについての知識を習得することで、人間の神経システムの全体像を俯瞰できるようになることを目指す。また、能動学習という学生が自ら学び、調べたことを発表し、理解を深める講義スタイルを導入する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能を制御する神経系の基礎を理解する 2. 理学療法・作業療法士の国家試験合格を目的とした神経メカニズムの基礎知識を獲得する
学生への要望	上記の目標に到達するために、教員から学生への一方通行的な講義だけではなく、相互的対話による学習効率の強化を目指す。このため、学生には自己学習だけではなく、積極的な講義への参加姿勢を求める。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	ニューロンの形態と機能①	樽見 航
第2回	講義	ニューロンの形態と機能②	樽見 航
第3回	講義	中枢神経系①(脊髄)	樽見 航
第4回	講義	中枢神経系②(間脳・脳幹)	樽見 航
第5回	講義	中枢神経系③(小脳・大脳皮質)	樽見 航
第6回	講義	中枢神経系④(大脳辺縁系・大脳基底核)	樽見 航
第7回	講義	末梢神経系(脊髄神経・脳神経)	樽見 航
第8回	講義	筋・骨格系①	中畑泰和
第9回	講義	筋・骨格系②	中畑泰和
第10回	講義	脊髄と神経伝導路①	中畑泰和
第11回	講義	脊髄と神経伝導路②	中畑泰和
第12回	講義	感覚①(体性感覚・内臓感覚)	中畑泰和

第13回	講義	感覚②（視覚・味覚）	中畑泰和
第14回	講義	感覚③（聴覚・平衡覚・嗅覚）	中畑泰和
第15回	講義	まとめ	中畑泰和、樽見 航

<評価方法>

成績評価・方法・基準	100点満点で評価する。 定期試験 100%；・筆記試験の得点により評価する。
------------	--

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第5版	メディカ出版
参考資料		

授業科目	運動学 I					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法にとっての運動学 (Kinesiology) は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。 人間のからだの構造を学ぶ解剖学、人間のからだの機能を学ぶ生理学、そして、身体および身体各部を物体とみなした時の力学を基礎とした応用科学であることについて学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動学用語を理解し、使用できるようになる。 ・運動力学を理解する ・身体を動かす際の中枢神経の働き（生理）について理解する。 ・身体を動かす際の末梢神経と効果器（筋）の働き（生理）について理解する。
学生への要望	原則的に教科書に沿って進めるので復習を欠かさないこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション、運動の捉え方	林 勇一郎
第 2 回	講義	生体の構造と機能①	林 勇一郎
第 3 回	講義	生体の構造と機能②	林 勇一郎
第 4 回	講義	運動器の構造と機能①	林 勇一郎
第 5 回	講義	運動器の構造と機能②	林 勇一郎
第 6 回	講義	運動器の構造と機能③	林 勇一郎
第 7 回	講義	末梢神経と自律神経①	林 勇一郎
第 8 回	講義	末梢神経と自律神経②	林 勇一郎
第 9 回	講義	中枢神経系の構造と機能①	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	中枢神経系の構造と機能②	林 勇一郎
第 1 1 回	講義	中枢神経系の構造と機能③	林 勇一郎
第 1 2 回	講義	反射の仕組み①	林 勇一郎
第 1 3 回	講義	反射の仕組み②	林 勇一郎
第 1 4 回	講義	反射の仕組み③	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	中間試験 40% 定期試験 60%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一 基礎運動学 第7版	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	社会福祉論					
担当者	柳川 裕美	所 属	合同会社 Three・M			
実務経験者の概要	実務経験(有) 社会福祉士として特別養護老人ホームで相談業務に従事した後、介護支援専門員として居宅介護支援事業所で実務を行う。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	<p>社会福祉の歴史とその概要を学び、あわせて時事の話題や課題に触れながら今後の社会福祉の在り方について考察する。以下のことを学習のねらいとする。</p> <p>1)諸外国を含めた社会福祉の概念ととりまく状況を理解する。</p> <p>2)日本における福祉の現状と課題を理解する。</p> <p>3)日本における福祉のビジョンとトレンドを理解する。</p> <p>4)社会福祉を支える社会資源について理解する。</p> <p>5)今後の我が国の社会福祉の課題と展望を考察する。</p>
到達目標	何のためにリハビリテーションを行うのかを常に考え実践できるセラピストになる。
学生への要望	セラピストとして生理学的な知識等は必須だが、その先にあるクライアントの「暮らし」も同様に重要な視点である。この「暮らし」を支える諸施策の基本を学ぶと同時に、セラピストとして患者さんや地域に対してどう関わっていけるかを考察してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	社会福祉の理念	柳川 裕美
第 2 回	講義	国・自治体組織や福祉人材の展望	柳川 裕美
第 3 回	講義	地域福祉について	柳川 裕美
第 4 回	講義	高齢者福祉～アドバンス・ケア・プランニングについて考える～	柳川 裕美
第 5 回	講義	高齢者福祉～介護保険制度について考える～	柳川 裕美
第 6 回	講義	高齢者福祉～高齢者虐待～	柳川 裕美
第 7 回	講義	認知症の母「ドキュメンタリー映画」前半	柳川 裕美
第 8 回	講義	認知症を支える父と娘「ドキュメンタリー映画」後半	柳川 裕美
第 9 回	講義	障害者福祉について	柳川 裕美
第 1 0 回	講義	障害者福祉について	柳川 裕美
第 1 1 回	講義	利用者保護制度について	柳川 裕美
第 1 2 回	講義	低所得者福祉について	柳川 裕美
第 1 3 回	講義	子ども家庭福祉について・ケアラーの支援	柳川 裕美
第 1 4 回	講義	地域包括ケアシステムとは	柳川 裕美
第 1 5 回	試験	まとめ	柳川 裕美

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	石田慎二・他	社会福祉 第 6 版	ミネルヴァ書房
参考資料	社会福祉の動向 2026		中央法規出版

授業科目	リハビリテーション概論					
担当者	淡野義長・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	障害のある方に寄り添って、その方々を支え、その方々一人ひとりの力となる仕事に就く医療従事者の一員＝リハビリテーションに携わる専門職を目指すものとして、「健康」と「障害」について理解する。個人や社会の障害に対する考え方の変遷、社会保障体制の変化や、チーム医療としての各専門職との連携について学ぶ。
到達目標	リハビリテーション(rehabilitation)を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。
学生への要望	講義の前に教科書を読んで予習しておいてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	リハビリテーションの意味と定義	淡野 義長
第 2 回	講義	リハビリテーションの歴史	淡野 義長
第 3 回	講義	リハビリテーション 障害と障害者の歴史	韋 傳春
第 4 回	講義	障害の捉え方 (ICIDH から ICF へ)	韋 傳春
第 5 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度①	淡野 義長
第 6 回	講義	リハビリテーションを支える社会保障制度②	淡野 義長
第 7 回	講義	リハビリテーションとチーム医療①	韋 傳春
第 8 回	講義	リハビリテーションとチーム医療②	韋 傳春
第 9 回	講義	リハビリテーション工学①	淡野 義長
第 1 0 回	講義	リハビリテーション工学②	淡野 義長
第 1 1 回	講義	活動とは①	韋 傳春
第 1 2 回	講義	活動とは②	韋 傳春
第 1 3 回	講義	グループワーク	淡野・韋
第 1 4 回	講義	グループワーク・発表	淡野・韋
第 1 5 回	講義	まとめ	淡野・韋

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % + 活動加算
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	川手 信行 はじめての講義 リハビリテーション概論のいろは	南江堂
参考資料		

授業科目	理学療法概論 I					
担当者	本多 奨平・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。 訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法についての概要を理解し、医療従事者としての基本的姿勢を身に着ける。
到達目標	1. 理学療法の歴史的背景について説明できる。 2. 理学療法士の活動場면을説明できる 3. 理学療法士としての資質や心構えを習得できる
学生への要望	医療従事者である理学療法士としての資質や心構えを習得してほしい。また、施設見学を実施するにあたり実習前の準備方法や実習後の報告の仕方を習得してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	理学療法士とは	本多 奨平
第 2 回	講義	理学療法士に求められる要素	本多 奨平
第 3 回	講義	リハビリテーションとハビリテーション	本多 奨平
第 4 回	講義	理学療法士・作業療法士法	本多 奨平
第 5 回	講義	職域と労働対価	本多 奨平
第 6 回	演習	職能団体と協働職種	本多 奨平
第 7 回	演習	理学療法士の卒前・卒後教育	山内 満
第 8 回	演習	疾患と障害の分類	山内 満
第 9 回	演習	施設見学準備①	本多・山内
第 10 回	演習	施設見学準備②	本多・山内
第 11 回	演習	施設見学①	本多・山内
第 12 回	講義	施設見学②	本多・山内
第 13 回	講義	施設見学報告①	本多・山内
第 14 回	講義	施設見学報告②	本多・山内
第 15 回	講義	まとめ	本多・山内

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% 課題提出 20%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	庄本康治 PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論	羊土社
参考資料		

授業科目	理学療法評価学 I					
担当者	山内 満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として急性期の運動器疾患を中心に回復期、生活期、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法評価は、対象者の身体状態を把握し適切な治療方針のために必要不可欠なものである。正確かつ適切な評価測定を学ぶだけでなく、評価の意義や目的、手順などを理解するよう重点的に講義を行う。演習を通して評価技術の基礎をしっかりと習得する。
到達目標	評価の意義や目的を理解し、正確かつ適切な評価技術を習得する。
学生への要望	常に評価の意義や目的を再確認しながら、積極的に実技を行ってほしい。また、教員による実演での細かな手法は積極的に記録し、再現しやすくしておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論	山内・本多
第 2 回	講義	各論：一般的評価事項	山内・本多
第 3 回	講義	各論：バイタルサインの概要と実際	山内・本多
第 4 回	講義	各論：形態測定の概要	山内・本多
第 5 回	演習	各論：形態測定の実際	山内・本多
第 6 回	演習	各論：関節可動域測定の概要	山内・本多
第 7 回	講義	各論：関節可動域測定の実際（上肢）	山内・本多
第 8 回	演習	各論：関節可動域測定の実際（上肢）	山内・本多
第 9 回	演習	各論：関節可動域測定の実際（上肢）	山内・本多
第 10 回	講義	各論：関節可動域測定の実際（下肢）	山内・本多
第 11 回	演習	各論：関節可動域測定の実際（下肢）	山内・本多
第 12 回	演習	各論：関節可動域測定の実際（下肢）	山内・本多
第 13 回	講義	各論：関節可動域測定の実際（頸部・体幹）	山内・本多
第 14 回	演習	各論：関節可動域測定の実際（頸部・体幹）	山内・本多
第 15 回	講義	まとめ	山内・本多

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 50% 実技試験 50%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	松澤 正 理学療法評価学 改訂第 6 版補訂版	金原出版
参考資料		

授業科目	日常生活活動 I					
担当者	本多奨平・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションなど生活期での勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	日常生活活動の基礎的な知識を身につけ、実習を通しながら正常動作・活動を理解し、理学療法士の視点から日常生活活動を捉える。
到達目標	概念、基本・複合動作、評価と基本的指導方法を理解する。
学生への要望	身近な日常生活活動を意識し講義内容と結び付けながら現実的に理解して欲しい。また、実習には真剣に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション ADL 総論①：学生自身の生活から	本多奨平
第 2 回	講義	ADL 総論②：ADL の定義と特徴・含まれる動作・活動、IADL、APDL、QOL、ICF	本多奨平
第 3 回	講義	姿勢・起居移動・床上動作①	韋 傳春
第 4 回	講義	姿勢・起居移動・床上動作②	韋 傳春
第 5 回	演習	実際の介助法①	韋 傳春
第 6 回	演習	実際の介助法②	韋 傳春
第 7 回	演習	実際の介助法③	韋 傳春
第 8 回	講義	家事動作、福祉・日常生活用具、自助具	本多奨平
第 9 回	講義	食事動作、更衣・整容動作	本多奨平
第 1 0 回	講義	排泄動作、入浴動作	本多奨平
第 1 1 回	演習	歩行動作と歩行補助具	本多奨平
第 1 2 回	講義	移動動作（車椅子移動）①	韋 傳春
第 1 3 回	演習	移動動作（車椅子移動）②	韋 傳春
第 1 4 回	講義	ADL 評価	本多奨平
第 1 5 回	講義	まとめ	本多奨平

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	石川 朗 ADL・実習 15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 中山書店
参考資料	橋元 隆 日常生活活動（ADL） 神陵文庫 飛松好子 新イラストによる安全な動作介助のてびき 医歯薬出版

理学療法学科 1年生 後期

授業科目	医療基礎Ⅱ					
担当者	本多 奨平	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	医療におけるチーム医療の一環として多職種がそれぞれ果たす役割や繋がり、情報収集などの職種ならではの目線・得意分野を学びチーム医療の理解を深める。また、現場での医療事故などの実態を学び、医療人としての心得を再考する。
到達目標	1. 前期の課題をもとに、後期の目標を明確にできる 2. チーム医療について理解する 3. 医療事故、リスク管理について理解する
学生への要望	自己学習、グループ学習を通して、前期を振り返り、後期の目標を明確にしてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	前期の振り返り①	本多 奨平
第 2 回	演習	前期の振り返り②	本多 奨平
第 3 回	講義	グループによる学習方法①	本多 奨平
第 4 回	演習	グループによる学習方法②	本多 奨平
第 5 回	演習	グループによる学習方法③	本多 奨平
第 6 回	演習	臨床実習Ⅰ 実習前準備① (実習先に関する情報収集など)	本多 奨平
第 7 回	演習	臨床実習Ⅰ 実習前準備② (実習における心構え)	本多 奨平
第 8 回	演習	臨床実習Ⅰ 実習前準備③ (デイリーノートの書き方)	本多 奨平
第 9 回	演習	臨床実習Ⅰ 実習前準備② (到達目標と行動目標、課題について)	本多 奨平
第 1 0 回	講義	臨床実習Ⅰ 実習報告①	本多 奨平
第 1 1 回	講義	臨床実習Ⅰ 実習報告②	本多 奨平
第 1 2 回	演習	消費者センター出前講座	本多 奨平
第 1 3 回	演習	後期の振り返り①	本多 奨平
第 1 4 回	演習	後期の振り返り②	本多 奨平
第 1 5 回	講義	1 年時の総まとめ	本多 奨平

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	配布資料
参考資料	学生便覧、2026 年度授業計画

授業科目	解剖学Ⅱ					
担当者	佐伯 和信、村井 清人	所 属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	2 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	6 0 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学Ⅰの分野に続いて、人体諸器官の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて解説する。
到達目標	人体の肉眼解剖学的な主要な構造について、適切な用語を用いて具体的に説明できる。
学生への要望	解剖学の知識は、将来の専門的な事柄を理解するための基礎的な知識となる。先ず人の身体がどのような構造になっているのか興味を持って欲しい。その上で、講義で出てくる解剖学用語を学生諸君自らが考えて理解していく姿勢が望ましい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容		担 当
第 1 回	講義	(1) 脈管学	脈管学総論	佐伯 和信
第 2 回	講義		心臓①	佐伯 和信
第 3 回	講義		心臓②	佐伯 和信
第 4 回	講義		心臓③	佐伯 和信
第 5 回	講義		動脈系①	佐伯 和信
第 6 回	講義		動脈系②	佐伯 和信
第 7 回	講義		動脈系③	佐伯 和信
第 8 回	講義		静脈系①	佐伯 和信
第 9 回	講義		静脈系②、胎児循環	佐伯 和信
第 1 0 回	講義		リンパ系①	佐伯 和信
第 1 1 回	講義	(2) 神経学	神経系の概要	村井 清人
第 1 2 回	講義		神経系の概要	村井 清人
第 1 3 回	講義	(1) 脈管学	リンパ系②	佐伯 和信
第 1 4 回	講義	(2) 神経学	脊髄、脊髄神経	佐伯 和信
第 1 5 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 6 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 7 回	講義		脊髄神経	佐伯 和信
第 1 8 回	講義		感覚器：外皮、嗅覚器	村井 清人
第 1 9 回	講義		視覚器	村井 清人
第 2 0 回	講義		平衡聴覚器	村井 清人
第 2 1 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 2 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 3 回	講義		脳神経	村井 清人
第 2 4 回	講義		自律神経系	村井 清人
第 2 5 回	講義		大脳	村井 清人

第26回	講義		大脳	村井 清人
第27回	講義		大脳	村井 清人
第28回	講義		脳幹・小脳	村井 清人
第29回	講義		脳幹・小脳	村井 清人
第30回	講義		脳室系—髄液、脳髄膜、動・静脈	村井 清人

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	平田幸男	分冊 解剖学アトラス I・II・III ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)	文光堂
	坂井 建雄	プロメテウス解剖学・コアアトラス (電子版)	医学書院
参考資料	小川鼎三・他	分担 解剖学 1.2.3	金原書店
	竹内 修二	解剖学トレーニングノート第7版	医学教育出版社

授業科目	生理学Ⅲ					
担当者	松本 逸郎	所 属	活水女子大学非常勤講師、日本生理学会会員			
実務経験者の概要	実務経験(無) 作業療法士および理学療法士としての実務は経験ない。 長崎大学医学部勤務 42 年。最終職階は同大医歯薬総合研究科准教授。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	生理学Ⅰに続いて、より高度に調節された機能である消化・吸収、腎臓・体液、酸・塩基平衡、内分泌、免疫系の生理・病態生理について学ぶ。
到達目標	作業療法士および理学療法士としての専門的知識・技術を理解できる基礎的学力を身につけることが出来る。
学生への要望	講義のプリント（パワーポイントで作成した図）と内蔵機能の概要・ポイントを予め配信するので、予習しておくこと。併せて各々の講義单元ごとに小テスト問題を提示するので、解答を提出すること。分からないことがあれば、講義中でも終了後でも良いので質問すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	消化・吸収Ⅰ：消化管の運動（嚥下、蠕動、排便、下痢、嘔吐）	松本逸郎
第 2 回	講義	消化・吸収Ⅱ：消化と吸収（嚥下、食道、胃、）	松本逸郎
第 3 回	講義	消化・吸収Ⅲ:消化と吸収（小腸、結腸、排便）	松本逸郎
第 4 回	講義	肝・胆・膵：肝臓・胆嚢・膵臓の機能、消化管ホルモンによる調節	松本逸郎
第 5 回	講義	腎臓Ⅰ：ネフロン、糸球体濾過、傍糸球体装置	松本逸郎
第 6 回	講義	腎臓Ⅱ：再吸収と電解質バランス、排尿	松本逸郎
第 7 回	講義	腎臓Ⅲ：クリアランス	松本逸郎
第 8 回	講義	腎臓Ⅳ：血圧調節、ホルモン産生（エリスロポエチン、ビタミン D3）	松本逸郎
第 9 回	講義	酸・塩基平衡：呼吸性酸塩基平衡異常、代謝性酸塩基平衡異常、肺と腎臓の代償作用	松本逸郎
第 1 0 回	講義	内分泌Ⅰ：視床下部－下垂体前葉・後葉－甲状腺	松本逸郎
第 1 1 回	講義	内分泌Ⅱ：視床下部－下垂体－副腎(皮質と髄質)	松本逸郎
第 1 2 回	講義	内分泌Ⅲ：視床下部－下垂体－性腺	松本逸郎
第 1 3 回	講義	内分泌Ⅳ：成長、糖代謝、骨代謝と Ca ²⁺ 代謝	松本逸郎
第 1 4 回	講義	リンパ球と免疫	松本逸郎
第 1 5 回		まとめ	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% 小テストのレポート課題 10%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	武田 裕子 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 第5版	メディカ出版
参考資料	竹内修二 生理学トレーニングノート	医学教育出版社
	坂井建雄 系統看護学 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	医学書院

授業科目	運動学Ⅱ					
担当者	林 勇一郎	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法にとっての運動学 (Kinesiology) は、「人間の運動の科学」であり、理学療法士として実務をするために必須の学問である。 上肢、下肢、体幹、頭頸部の機能解剖に基づいた運動の分析を関節運動学と運動力学の視点から部位別に学ぶ。
到達目標	下肢、体幹・頭頸部の関節運動学を理解し、触診やデモンストレーションが出来るようになる。
学生への要望	理学療法の基礎学問として運動学Ⅰから続く重要な科目であり、更に運動学Ⅲ、臨床運動学と引き続き勉強なのでしっかり学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	上肢の関節運動学① (上肢帯に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 2 回	講義	上肢の関節運動学② (肩関節に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 3 回	演習	上肢の運動学演習① (上肢帯と肩関節の触診や関節運動の確認)	林 勇一郎
第 4 回	講義	上肢の関節運動学③ (肘関節に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 5 回	講義	上肢の関節運動学④ (手関節・手指に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 6 回	演習	上肢の運動学演習② (肘関節・手関節の触診と関節運動の確認)	林 勇一郎
第 7 回	講義	下肢の関節運動学① (股関節に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 8 回	講義	下肢の関節運動学② (膝関節に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 9 回	講義	下肢の関節運動学③ (足関節に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 10 回	演習	下肢の運動学演習① (股関節・膝関節の触診と関節運動の確認)	林 勇一郎
第 11 回	講義	体幹の関節運動学① (頸部に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 12 回	講義	体幹の関節運動学② (胸・腰部に関する運動器官と関節運動学)	林 勇一郎
第 13 回	演習	体幹の運動学演習 (脊椎全般の触診と関節運動の確認)	林 勇一郎
第 14 回	講義	顔面・頭部の運動学 (顔面に関する運動器官)	林 勇一郎
第 15 回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一	基礎運動学 第7版	医歯薬出版
参考資料			

授業科目	人間発達学					
担当者	牧山 美穂	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて中枢疾患、変性疾患、認知症などに対する作業療法士としての臨床経験を持つ。訪問リハビリテーション、機能訓練事業等にも従事経験がある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	人間の発達を「運動能力」「言語」「社会性」の面から考える
到達目標	乳幼児の発達段階を理解できる。発達遅滞と発達障害について理解できる。
学生への要望	いっしょに「楽しくて身になる」時間をつくりましょう

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	イントロダクション 発達総論	牧山 美穂
第 2 回	講義	発達各論 1 成長、運動、言語、社会性	牧山 美穂
第 3 回	講義	発達各論 2 成長、運動、言語、社会性	牧山 美穂
第 4 回	講義	発達を妨げる因子 疾患	牧山 美穂
第 5 回	講義	発達を妨げる因子 社会・環境因子、医療的ケア	牧山 美穂
第 6 回	講義	発達障害 (ADHD、学習障害、自閉症スペクトラム)	牧山 美穂
第 7 回	講義	発達遅滞、発達障害にリハビリテーションは何をしてあげられるか	牧山 美穂
第 8 回	講義	まとめ	牧山 美穂

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	資料配布
参考資料	

授業科目	臨床心理学					
担当者	長尾 博	所 属				
実務経験者の概要	実務経験(無) 1976年から現在まで50年間、精神科病院で非常勤の心理臨床家					
学科名	理学療法学科	学 年	1年	総単位数	1単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士として、不適応者の適応へ向けての心理学を特に学ぶ。臨床心理学とは何か、その歴史、心理面接や心理テストの内容について特に詳しく学ぶ。
到達目標	心の病いをもつ患者さんの心理的理解の方法とその対応の基礎を理解する。
学生への要望	自分が患者さんと関わったらと仮定して受講してもらいたい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	臨床心理学とは（未完成な学問。心理学の中心ではない）	長尾 博
第2回	講義	臨床心理学の歴史（米大リーグよりも新しい歴史の学問）	長尾 博
第3回	講義	さまざまな心の病い①（十人十色）	長尾 博
第4回	講義	さまざまな心の病い②（七色仮面）	長尾 博
第5回	講義	適応理論と不適応について（長いものに巻かれる適応）	長尾 博
第6回	講義	こころの発達について①（3つ子の魂百まで）	長尾 博
第7回	講義	こころの発達について②（思春期・青年期）	長尾 博
第8回	講義	こころの発達について③（壮年期の英語 manhood と老年期）	長尾 博
第9回	講義	心理テストについて①（なぜ心理テストをするのか）	長尾 博
第10回	講義	心理テストについて②（心理テストは当たるのか）	長尾 博
第11回	講義	心理面接の各種技法について①（カウンセリングはアドバイスではない）	長尾 博
第12回	講義	心理面接の各種技法について②（心の奥を見抜く面接）	長尾 博
第13回	講義	心理面接の各種技法について③（心を変える面接）	長尾 博
第14回	講義	まとめⅠ（国家試験に向けて）	長尾 博
第15回	講義	まとめⅡ（役に立つ仕事とは何か）	長尾 博

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	長尾 博 現代臨床心理学講座（資料）
参考資料	

授業科目	病理学概論					
担当者	片瀬 直樹	所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔病理学分野 助教。口腔病理専門医・指導医、分子病理医(口腔)、細胞診専門歯科医・指導医として長崎大学病院で病理診断業務に従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	病理学は疾患の成り立ちを明らかにする基礎医学の一分野であると同時に患者から採取した細胞や組織の病理診断、術中病理診断、亡くなった患者の死因や治療上の疑問点を検討する病理解剖を担う臨床科の側面ももつ。このように病理学は基礎と臨床の橋渡しの学問として極めて重要である。また病理学の知識は臨床医学を理解するうえでの基礎知識となる。本講義では病理学概論として病理学総論を主体として講義するが、各論の内容も一通り扱う。
到達目標	リハビリテーションの臨床で重要な疾患の概念を簡単な表現で説明できる。
学生への要望	講義に出席する。毎回講義資料を前もって配布するので、予習として熟読してくること。最終評価には含めないが、自主学習の習慣をつけるために各単元の初めに予習テストを行う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	病理学の概要	片瀬 直樹
第 2 回	講義	病気の原因	片瀬 直樹
第 3 回	講義	細胞・組織の障害と修復	片瀬 直樹
第 4 回	講義	循環障害	片瀬 直樹
第 5 回	講義	炎症と免疫①	片瀬 直樹
第 6 回	講義	炎症と免疫②	片瀬 直樹
第 7 回	講義	感染症	片瀬 直樹
第 8 回	講義	代謝異常	片瀬 直樹
第 9 回	講義	先天異常、老化と死	片瀬 直樹
第 1 0 回	講義	腫瘍①	片瀬 直樹
第 1 1 回	講義	腫瘍②	片瀬 直樹
第 1 2 回	講義	病理学各論①	片瀬 直樹
第 1 3 回	講義	病理学各論②	片瀬 直樹
第 1 4 回	講義	病理学各論③	片瀬 直樹
第 1 5 回	講義	まとめ	片瀬 直樹

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	大橋健一 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第 6 版	医学書院
参考資料	梶原博毅 標準 PT・OT 専門基礎分野 病理学 第 4 版	医学書院

授業科目	内科学 I					
担当者	井手 政利	所 属	井手内科クリニック			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	内科学は臨床医学の中心となる学問である。また、リハビリテーションの対象となる患者の多くは内科疾患を合併しており、患者評価やリハビリ計画の実践にも内科全般にわたる正しい知識が必要であり、これらの点から内科学は理学療法士・作業療法士にとってきわめて重要な科目である。病態の理解を中心とした生きた知識を身につける必要がある。教科書で足りない部分はプリントで補って授業を進めている。
到達目標	内科疾患について、簡単に表現で説明できる。
学生への要望	高校までの受身の学習と違い、専門学校は自ら学ぶ姿勢がきわめて重要である。内科学は範囲が広く、期末試験前の一夜漬けで期末試験を乗り切るのは困難である。また、内科学の知識は試験が終われば忘れてよい知識ではなく、臨床実習でも、さらにプロの医療職としても欠かせない基本的知識である。日頃の地道な勉強で生きた知識を身につけることが内科学学習の鉄則である。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	感染症総論	井手 政利
第 2 回	講義	感染症各論 1：細菌感染症等	井手 政利
第 3 回	講義	感染症各論 2：ウイルス感染症等	井手 政利
第 4 回	講義	循環器疾患：解剖、生理、症候	井手 政利
第 5 回	講義	循環器診断法 その 1	井手 政利
第 6 回	講義	循環器診断法 その 2	井手 政利
第 7 回	講義	循環器各論 (I)	井手 政利
第 8 回	講義	循環器各論 (II)	井手 政利
第 9 回	講義	呼吸器総論	井手 政利
第 1 0 回	講義	呼吸器各論 (I)	井手 政利
第 1 1 回	講義	呼吸器各論 (II)	井手 政利
第 1 2 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (I)	井手 政利
第 1 3 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (II)	井手 政利
第 1 4 回	講義	アレルギー疾患、膠原病、免疫不全症 (III)	井手 政利
第 1 5 回	講義	まとめ	井手 政利

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	前田眞治ほか 標準 PT・OT シリーズ 内科学 第 4 版 プリント配布	医学書院
参考資料		

授業科目	整形外科学 I					
担当者	衛藤 正雄	所 属	済生会長崎病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院、済生会長崎病院などで整形外科医として経験している。臨床現場の経験をもとに整形外科領域における教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科学全般
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	総論 整形外科学的診断学、整形外科学的緒療法	衛藤 正雄
第 2 回	講義	各論 軟部組織損傷	衛藤 正雄
第 3 回	講義	各論 骨関節の損傷総論	衛藤 正雄
第 4 回	講義	各論 肩関節および上腕 1	衛藤 正雄
第 5 回	講義	各論 肩関節および上腕 2	衛藤 正雄
第 6 回	講義	各論 肘関節および前腕	衛藤 正雄
第 7 回	講義	各論 手関節と手指	衛藤 正雄
第 8 回	講義	各論 股関節および大腿 1	衛藤 正雄
第 9 回	講義	各論 股関節および大腿 2	衛藤 正雄
第 1 0 回	講義	各論 膝関節および下腿 1	衛藤 正雄
第 1 1 回	講義	各論 膝関節および下腿 2	衛藤 正雄
第 1 2 回	講義	各論 足関節と足部	衛藤 正雄
第 1 3 回	講義	各論 慢性疼痛疾患、スポーツ整形外科、障害者スポーツ	衛藤 正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤 正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤 正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰 他 整形外科学テキスト 改訂第 5 版	南江堂
参考資料		

授業科目	神経内科学 I					
担当者	佐藤 聡・富田 逸郎・瀬戸 牧子・ 佐藤 秀代	所 属	長崎北病院			
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士、作業療法士として最低知っておくべき神経内科学の総論的事項の講義を行う。
到達目標	理学療法士、作業療法士の実務に必要な神経内科の知識を習得する。
学生への要望	授業を単に聞くのではなく、重要な点はノート・メモをしっかりとって欲しい。また、過去問は出題者のメッセージである。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(1)	富田 逸郎
第 2 回	講義	中枢神経系の解剖と機能(2)	富田 逸郎
第 3 回	講義	神経学診断と評価(1)	富田 逸郎
第 4 回	講義	神経学診断と評価(2)	佐藤 聡
第 5 回	講義	神経学的検査法	富田 逸郎
第 6 回	講義	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神	富田 逸郎
第 7 回	講義	運動麻痺、錐体路症状、筋萎縮	富田 逸郎
第 8 回	講義	錐体外路症状、不随意運動、運動失調	富田 逸郎
第 9 回	講義	感覚障害、失語症	富田 逸郎
第 10 回	講義	失認、失行	富田 逸郎
第 11 回	講義	記憶障害、注意障害、遂行機能障害	富田 逸郎
第 12 回	講義	構音障害、嚥下障害、球麻痺、脳外科領域疾患	富田 逸郎
第 13 回	講義	知能検査、認知症	富田 逸郎
第 14 回	講義	補講	富田 逸郎
第 15 回		まとめ	富田 逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	100%
------------	------	------

<教科書および参考書>

教科書	川平 和美	PT・OT 専門基礎分野 神経内科学 第6版	医学書院
参考資料	田崎 義昭	ベッドサイドの神経の診かた	南山堂

授業科目	精神医学総論					
担当者	岩阪 真大	所 属	出口病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 作業療法士として精神科病院等に従事し、精神障害者のリハビリテーションに携わった。					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	主な精神症状や精神疾患の特徴および治療について学び、精神障害への理解を深める。
到達目標	代表的な精神障害の精神症状や特徴が説明できるようになる。 精神症状を呈する方への適切な対応ができるための理解を目指す。
学生への要望	ひとの精神機能および障害について理解を深めるために、名称はきちんと読めるようになること。わからない用語は、教科書や辞書で調べる習慣を身に付けてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	精神医学とは 精神疾患の分類	岩阪 真大
第 2 回	講義	精神機能の障害と精神症状①	岩阪 真大
第 3 回	講義	精神機能の障害と精神症状②	岩阪 真大
第 4 回	講義	器質性精神障害	岩阪 真大
第 5 回	講義	精神作用物質による精神および行動の障害	岩阪 真大
第 6 回	講義	統合失調症	岩阪 真大
第 7 回	講義	気分(感情)障害	岩阪 真大
第 8 回	講義	心身症、神経症性障害	岩阪 真大
第 9 回	講義	摂食障害、睡眠障害	岩阪 真大
第 1 0 回	講義	パーソナリティ障害	岩阪 真大
第 1 1 回	講義	心理的発達障害	岩阪 真大
第 1 2 回	講義	ライフサイクルにおける精神医学	岩阪 真大
第 1 3 回	講義	治療とリハビリテーション① (薬物療法、身体療法)	岩阪 真大
第 1 4 回	講義	治療とリハビリテーション② (精神療法)	岩阪 真大
第 1 5 回	講義	まとめ	岩阪 真大

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	上野武治；標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第 4 版増補版 医学書院
参考資料	太田保之・他；学生のための精神医学 第 3 版、医歯薬出版 野村総一郎・他；標準精神医学 第 7 版、医学書院 上島国利・他；精神医学テキスト[改訂第 4 版]、南江堂 武田雅俊；精神医学マイテキスト 改訂第 2 版、金芳堂 落合慈之；精神神経疾患 ビジュアルブック、学研メディカル秀潤社

授業科目	小児科学					
担当者	小柳 憲司	所 属	長崎県立こども医療福祉センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 一般病院・小児専門病院における一般小児科診療および小児心療科専門診療(現職)、長崎大学医学部・教育学部、佐賀大学医学部非常勤講師(現職)、児童相談所嘱託医(経験)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士・作業療法士国家試験出題基準に準拠しながら、療法士として子どもの治療を行うにあたって必要な知識だけでなく、人として子どもと家族に関わるときに大切なことや、将来親となり子育てを行うときに役立つ知識が得られるような講義を行う。「子どもは小さな大人ではない」と言われるが、子どもを常に成長・発達していく存在として見ていけるようになることをめざす。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの正常発達について知り、発達の異常を見分けることができる。 ・医療従事者として必要な子どもの病気についての知識を持ち、医療現場で他のスタッフと共通言語でコミュニケーションが取れるようになる。 ・感染症やけいれん発作、虐待の疑いがある場合などに適切な対応がとれるようになる。
学生への要望	講義はスライドを用いて行う。スライド映写中に口頭で説明した内容を配布資料に書き込んだり、線を引いたりしながら講義を聞いてほしい。その部分が試験において(もちろん実臨床においても)重要な事項となる。予習は不要だが、講義を聞いて興味をもった分野については、参考書等を読み、知識を広げるよう努力してほしい。各回の講義後に小テストを行う。定期試験は原則、国家試験形式の選択問題とする。評価は小テストと定期試験で行う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	子どもを診るとはどういうことか(小児科概論) 正常発達、乳幼児健診、予防接種など、全般的注意事項、基礎知識について	小柳 憲司
第 2 回	講義	新生児・未熟児・循環器疾患・消化器疾患 新生児・未熟児医療の実際と乳児期に明らかになる先天異常としての循環器疾患・消化器疾患について	小柳 憲司
第 3 回	講義	子どもによくある病気(感染症) 子ども時代によく罹患する、ウイルス・細菌感染症について	小柳 憲司
第 4 回	講義	免疫・アレルギー疾患・腫瘍性疾患 免疫機序が関与する、アレルギー疾患・自己免疫疾患、および子どもに多い腫瘍性疾患について	小柳 憲司
第 5 回	講義	染色体異常・遺伝性疾患 遺伝子に関わる、染色体異常・先天奇形症候群について	小柳 憲司
第 6 回	講義	神経・筋疾患 中枢神経系の発生異常・水頭症・神経皮膚症候群・てんかん・筋ジストロフィーなどの神経筋疾患について	小柳 憲司

第7回	講義	脳性麻痺・重症心身障害児 脳性麻痺・重症心身障害児とその治療、および療育について	小柳 憲司
第8回	講義	子どものこころの諸問題 発達障害（神経発達症）・心身症・精神疾患・子ども虐待など、子どものこころの問題全般について	小柳 憲司

<評価方法>

成績評価・方法・基準	小テスト40% 定期試験60%
------------	-----------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	富田 豊 標準理学療法学・作業療法学 小児科学 医学書院

授業科目	外科学					
担当者	田口 憲士・他	所 属	長崎大学病院 外傷センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院や長崎労災病院などで整形外科や救急医療の経験を有する。資格として、整形外科専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医、JATEC プロバイダーを取得。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	外科学と内科学の違いは、主として治療手段の違いであって、近年、両者の差は小さくなっているといえる。両教科の授業内容を合わせて臨床医学の概念が頭に入るように、外科学の授業は外科領域に特有の総論的なテーマを中心に学習することとしている。各論の内容は内科学と重複する部分も多い。この部分は内科学でしっかり学習してほしい。
到達目標	創傷、熱傷、感染、出血・輸血、腫瘍に関する基礎的及び診療に関する標準的知識を習得する。心臓外科に関してそのアウトラインを学ぶ予定である。昨年より新型コロナウイルス感染に関連して感染の時間を増やし、心臓外科の部分を減らしている。
学生への要望	外科学は、内科学や整形外科学に比べるとリハビリテーションとの関係が薄いように感じられるかも知れないが、現代医学の中で重要な位置を占めており、外科の知識と技術は君たちが医療現場に出てからもぜひ必要なものである。私自身の40年に及ぶ外科医としての体験を含め、「外科とは何か」という問題を君たちと一緒に考えてみたいと思う。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	外科の特徴、外科の歴史、外科治療の特殊性	中村 瞬
第2回	講義	損傷（原因、分類、重症度、治療）	田口 憲士
第3回	講義	熱傷（原因、分類、重症度、治療）	岩尾 敦彦
第4回	講義	感染対策（滅菌と消毒、院内感染予防対策）	藤田 あゆみ
第5回	講義	出血・止血・輸血（種類、検査、方法、副作用、対策）	山野 修平
第6回	講義	腫瘍（良性腫瘍と悪性腫瘍、がんの病態、疫学など）	中村 瞬
第7回	講義	まとめ①	中村・田口・岩尾・ 藤田・山野
第8回	講義	まとめ②	中村・田口・岩尾・ 藤田・山野

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	オリジナル資料
参考資料	

授業科目	脳神経外科学					
担当者	陶山 一彦	所 属	長崎みなとメディカルセンター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎みなとメディカルセンター 脳神経外科主任診療科長 これまで、長崎大学病院、長崎県島原病院、国立長崎医療センター、長崎労災病院での診療経験がある。長崎大学では大学院医歯薬学総合研究科神経病態制御外科学准教授として、医学生への講義を行っていた。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	脳神経外科学についての知識を深め、実践に役立てる。
到達目標	脳神経外科学の基本概念や代表疾患の病態生理、症候、治療など基礎的知識を習得し、リハビリテーションの臨床現場で活用できるように備える。
学生への要望	考える習慣をつけ、不明な点は早めに解決しましょう。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	神経の臨床解剖と画像	陶山 一彦
第 2 回	講義	神経の症候	陶山 一彦
第 3 回	講義	脳血管障害（総論・脳梗塞）	陶山 一彦
第 4 回	講義	脳血管障害（脳出血・くも膜下出血・リハビリテーション）	陶山 一彦
第 5 回	講義	頭部外傷	陶山 一彦
第 6 回	講義	脳腫瘍	陶山 一彦
第 7 回	講義	小児脳神経外科	陶山 一彦
第 8 回	講義	まとめ	陶山 一彦

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	井手隆文 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 プリント配布
参考資料	

授業科目	理学療法概論Ⅱ					
担当者	本多 奨平・他	所属	長崎医療技術専門学校専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	1	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法の実際についての概要を理解し、理学療法士に対する理解と興味を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法における評価と治療の大まかな流れを理解できる。 ・インフォームド・コンセントやコミュニケーションの重要性を理解できる。 ・運動療法、物理療法、義肢装具学の歴史を理解できる。
学生への要望	理学療法士に対する興味を深め、将来像をイメージできるよう積極的に学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	コミュニケーションの模擬体験	本多・山内
第2回	講義	評価：四肢計測、ROMの復習	本多・山内
第3回	講義	車椅子介助の模擬体験	本多・山内
第4回	講義	移乗・移動介助の模擬体験	本多・山内
第5回	講義	ホットパック実施補助の模擬体験	本多・山内
第6回	講義	認知症サポーター養成講座	小島・茂木地域包括支援センター
第7回	講義	疾患と障害の分類	本多・山内
第8回	講義	まとめ	本多・山内

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% レポート課題 20%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	庄本 康治 編	PT・OT ビジュアルテキスト理学療法概論第1版	羊土社
参考資料			

授業科目	理学療法評価学Ⅱ					
担当者	山内 満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として急性期の運動器疾患を中心に回復期、生活期、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法評価は、対象者の身体状態を把握し適切な治療方針のために必要不可欠なものである。正確かつ適切な評価測定を学ぶだけでなく、評価の意義や目的、手順などを理解するよう重点的に講義を行う。演習を通して評価技術の基礎をしっかりと習得する。
到達目標	評価の意義や目的を理解し、正確かつ適切な評価技術を習得する。
学生への要望	常に評価の意義や目的を再確認しながら、積極的に実技を行ってほしい。また、教員による実演での細かな手法は積極的に記録し、再現しやすくしておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	各論：筋力検査の概要	山内、本多
第 2 回	講義	各論：徒手筋力検査法の実際（上肢・肩甲帯）	山内、本多
第 3 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（上肢）	山内、本多
第 4 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（上肢）	山内、本多
第 5 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（上肢）	山内、本多
第 6 回	講義	各論：徒手筋力検査法の実際（肩甲帯）	山内、本多
第 7 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（肩甲帯）	山内、本多
第 8 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（下肢・体幹）	山内、本多
第 9 回	講義	各論：徒手筋力検査法の実際（下肢）	山内、本多
第 1 0 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（下肢）	山内、本多
第 1 1 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（下肢）	山内、本多
第 1 2 回	演習	各論：徒手筋力検査法の実際（体幹）	山内、本多
第 1 3 回	講義	各論：徒手筋力検査法の実際（体幹）	山内、本多
第 1 4 回	演習	徒手筋力検査法の実際振り返り	山内、本多
第 1 5 回	講義	まとめ	山内、本多

<評価方法>

成績評価・方法・基準	筆記試験 50% 実技試験 50%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	津山直一 新・徒手筋力検査法 原著第10版 松澤 正 理学療法評価学 改訂6版補訂版	協同医書出版 金原出版
参考資料		

授業科目	物理療法 I					
担当者	森 健次郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 総合病院にて理学療法士として中枢神経系疾患を中心とした急性期から回復期での実務を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	物理療法は様々な物理的刺激を生体へ加えることで、疾患の治療や症状の改善を図る治療であり、理学療法士にとって核となる治療法の一つである。本講義では、各物理療法の生理的作用、適応と禁忌、リスク管理、機器の使用と管理について学習する。また一部演習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する。 2. 温熱療法、寒冷療法、光線療法の生理的作用を理解する。 3. 学習した物理療法機器を使用する上でのリスクを想起できるようになる。 4. 生理的作用, リスクを勘案して, 適切な患者対応を考えることができるようになる。
学生への要望	使用方法を誤ると、怪我につながる可能性があるため、真剣に取り組み、理解を深めてほしい。また、演習では、積極的に機器を扱い、探求心を発揮してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション	森 健次郎
第 2 回	講義	物理療法総論	森 健次郎
第 3 回	講義	温熱療法に必要な物理学と生理学①	森 健次郎
第 4 回	演習	温熱療法に必要な物理学と生理学②	森 健次郎
第 5 回	講義	ホットパック、パラフィン浴	森 健次郎
第 6 回	講義	ホットパック、パラフィン浴	森 健次郎
第 7 回	演習	超短波、極超短波	森 健次郎
第 8 回	演習	超短波、極超短波	森 健次郎
第 9 回	講義	寒冷療法	森 健次郎
第 1 0 回	演習	寒冷療法	森 健次郎
第 1 1 回	講義	光線療法の物理学	森 健次郎
第 1 2 回	講義	レーザー療法	森 健次郎
第 1 3 回	演習	赤外線療法	森 健次郎
第 1 4 回	演習	紫外線療法	森 健次郎
第 1 5 回	講義	まとめ	森 健次郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 8 0 % 小テスト 2 0 %
------------	-----------------------

<教科書および参考書>

教科書	庄本康治 エビデンスから身につける物理療法 (第 2 版)	羊土社
参考資料	網元 和 標準理学療法学 物理療法学 第 4 班	医学書院
	千住秀明 物理療法 第 2 版	神陵文庫

授業科目	臨床実習 I					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	1 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	対象者に評価・治療を行うのではなく、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士・作業療法士の役割について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療関連職種に限らず、保健、福祉などにおけるセラピストの役割・分担について見学・体験する。 ② 対象者のもつ諸問題を身体的、心理的、社会的な視点で考える。 ③ セラピストと関わる他の関連職種についての役割・分担・専門内容を見学・体験する。 ④ 医療・福祉の各施設でセラピストが関わる事業の目的、役割及びリハビリテーション運営について見学・体験する。 ⑤ 見学・体験を通じて履修した知識及び技術を確認し、第 2 学年への学習意欲を更に高める。 ⑥ セラピスト、あるいは医療・福祉従事者の概念を把握し、将来、自分が理学療法士、作業療法士として進むための自覚を高める。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職と目指す学生にとって貴重な経験だが、その場では対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の行為によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

臨床実習前：臨床実習オリエンテーション
臨床実習施設：協力医療機関
一般目標 1：社会人としての行動や役割を理解する
行動目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 身だしなみや言葉遣い等社会人としての心得を説明し、適切な行動ができる。 ② 1日の業務の流れを理解し、清掃や整理整頓、治療準備などの診療周辺業務を体験する。 ③ 臨床でしか学べないこと（メモをとる能力や相手との距離感など）を理解して、経験したことや学んだことを蓄積する。
一般目標 2：医療・保健・福祉におけるセラピストの役割、分担を体験し、理解する
行動目標
<ul style="list-style-type: none"> ① 臨床実習指導者による対象者の評価及び治療における場面を見学する。可能であれば、診療補助の体験をする。 ② カンファレンスなどに積極的に参加し、セラピストの立場や他職種から提供される情報を具体的に理解する。 ③ チームの一員としての連携方法を見学・体験し、セラピストとしての責任と自覚を高めることができる。 ④ 臨床実習施設の社会的役割と組織と運営についての概要を理解する。
一般目標 3：対象者との関わりの中で対象者の持つ課題を理解する
行動目標

- ① 回診、検査、測定、評価の見学・補助並びにカンファレンス、院内勉強会などに参加し、質問、問題討議の場を体験する。
- ② 対象者の療養室巡回、家庭訪問等の場を体験し、対象者と生活環境との関係性を理解する。
- ③ 他職種による評価や治療の場面を見学し、具体的にその職種の役割や仕事内容などを理解する。

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 40% 実習後評価 60%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

理学療法学科 2年生 前期

授業科目	解剖学Ⅲ					
担当者	佐伯 和信	所 属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無) 本授業科目について、長崎大学医学部の講師として肉眼解剖学教育の実務経験を有している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学Ⅰ・Ⅱの分野に続いて、内臓学領域の正常構造を、関連する簡単な機能を含めて解説する。
到達目標	内臓学に関連する各器官の名称、構造的特徴を説明できる
学生への要望	しっかりと予習と復習をして、学んだ内容をノートにまとめること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	内臓学総論、消化器系①	佐伯 和信
第 2 回	講義	消化器系②	佐伯 和信
第 3 回	講義	消化器系③	佐伯 和信
第 4 回	講義	消化器系④	佐伯 和信
第 5 回	講義	消化器系⑤	佐伯 和信
第 6 回	講義	呼吸器系①	佐伯 和信
第 7 回	講義	呼吸器系②	佐伯 和信
第 8 回	講義	呼吸器系③	佐伯 和信
第 9 回	講義	泌尿器系①	佐伯 和信
第 10 回	講義	泌尿器系②	佐伯 和信
第 11 回	講義	生殖器系①	佐伯 和信
第 12 回	講義	生殖器系②	佐伯 和信
第 13 回	講義	生殖器系③	佐伯 和信
第 14 回	講義	生殖器系④	佐伯 和信
第 15 回	講義	内分泌系	佐伯 和信

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラスⅠ・Ⅱ・Ⅲ 平田幸男 文光堂 ヒューマン・アナトミー・アトラス 2021 (iPad アプリ)
参考資料	分担 解剖学 1.2.3 小川鼎三・他 金原書店

授業科目	解剖学演習					
担当者	佐伯和信・高村敬子	所属	長崎大学生命医科学域			
実務経験者の概要	実務経験(無)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	45 時間	

<内 容>

授業の概要	解剖学標本を観察させていただくことにより、人体諸器官の正常構造およびそれぞれの器官の関連性について学習する。
到達目標	人体の構造について、その実際を肉眼解剖学的見地から説明できるようになる。
学生への要望	実習前までに解剖標本見学実習ノートを作成し、しっかりと事前学習すること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	実習オリエンテーション	常勤教員
第 2 回	講義	事前オリエンテーション	常勤教員
第 3 回	講義	直前オリエンテーション	常勤教員
第 4 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成①	常勤教員
第 5 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成②	常勤教員
第 6 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成③	常勤教員
第 7 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成④	常勤教員
第 8 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑤	常勤教員
第 9 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑥	常勤教員
第 10 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑦	常勤教員
第 11 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑧	常勤教員
第 12 回	演習	解剖学復習と解剖ノート作成⑨	常勤教員
第 13 回	実習	胸腹部、内蔵、脳・脊髄	常勤教員
第 14 回	実習	胸腹部、内蔵、脳・脊髄	常勤教員
第 15 回	実習	上肢①	佐伯和信・高村敬子
第 16 回	実習	上肢②	佐伯和信・高村敬子
第 17 回	実習	上肢③、上肢関節	佐伯和信・高村敬子
第 18 回	実習	下肢①	佐伯和信・高村敬子
第 19 回	実習	下肢②	佐伯和信・高村敬子
第 20 回	実習	下肢③、下肢関節	佐伯和信・高村敬子
第 21 回	実習	頸部・背部	佐伯和信・高村敬子
第 22 回	実習	全身に構造について観察	佐伯和信・高村敬子
第 23 回	講義	まとめ	佐伯和信

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% ノート作成 10%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	分冊 解剖学アトラス I・II・III	平田幸男	文光堂
参考資料	分担 解剖学 1.2.3	小川鼎三・他	金原書店

授業科目	運動学Ⅲ					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	運動学 1・Ⅱで修得した知識をもとに、運動発達、運動制御、運動学習などを学習する。さらに、基本動作や歩行・走行などの動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動・動作の仕組みについて理解することをねらいとする。
到達目標	①姿勢や運動の制御を説明できる。 ②運動学習の基礎的理論を説明できる。 ③姿勢および平衡機能を分析、記述できる。 ④正常歩行を分析・記述できる。
学生への要望	常に基礎分野の復習を怠らず、理解に努めること。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	解剖・生理学のおさらい①	林勇一郎
第 2 回	講義	解剖・生理学のおさらい②	林勇一郎
第 3 回	講義	姿勢観察と分析	林勇一郎
第 4 回	講義	基本動作観察と分析①	林勇一郎
第 5 回	講義	基本動作観察と分析②	林勇一郎
第 6 回	演習	基本動作観察と分析③	林勇一郎
第 7 回	講義	歩行分析の基礎①	林勇一郎
第 8 回	講義	歩行分析の基礎②	林勇一郎
第 9 回	演習	歩行観察と分析①	林勇一郎
第 1 0 回	演習	歩行観察と分析②	林勇一郎
第 1 1 回	演習	歩行観察と分析③	林勇一郎
第 1 2 回	講義	応用歩行と走行	林勇一郎
第 1 3 回	演習	応用歩行と走行	林勇一郎
第 1 4 回	講義	運動学習とパフォーマンス	林勇一郎
第 1 5 回	講義	まとめ	林勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 % レポート課題 0 %
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	中村隆一	基礎運動学 第 6 版補訂	医歯薬出版
	岡庭 豊	からだが見える 人体の構造と機能	メグックスメディア
	石井慎一郎	動作分析 臨床活用講座	メジカルビュー
参考資料	武田 功	臨床歩行分析ワークブック	メジカルビュー
	盆子原秀三	印象から始める歩行分析	医学書院
	月城慶一	観察による歩行分析	医学書院

授業科目	内科学Ⅱ					
担当者	井手 政利 藤本 健志	所 属	井手内科クリニック 長与病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎労災病院、虹ヶ丘病院で内科医として勤務して、現在は井手内科クリニックの院長として診療を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	1年後期に引き続き、消化器系疾患および系統的疾患を学習する。 教科書は1年後期と同じものを使用し、プリントを併用することも前回と同様である。 1年後期と同じく、断片的知識よりも、病態の理解を中心に授業を進める方針である。
到達目標	消化器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、血液・造血器疾患などについて病因、病態、診断、治療、予後を系統的に学習し、内部障害との関連を整理する。
学生への要望	学習すべき内容が多いのは2年前期も1年後期と同様である。3年という期間で国家試験合格の力をつけるのは容易なことではなく、内科学の知識は国家試験一般問題の根幹をなす重要部分であることを認識し、あと2年の期間を有効に活用する必要がある。成績がよい学生と留年する学生の違いは「頭の良さ」などではなく、日々学習する習慣が身についているかいないかの違いである。気合を入れ直して授業に臨んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	消化器疾患1 (総論)	井手 政利
第2回	講義	消化器疾患2 (各論1)	井手 政利
第3回	講義	消化器疾患3 (各論2)	井手 政利
第4回	講義	肝胆膵疾患1 (解剖生理)	井手 政利
第5回	講義	肝胆膵疾患2 (各論1)	井手 政利
第6回	講義	肝胆膵疾患3 (各論2)	井手 政利
第7回	講義	血液・造血器疾患1 (総論)	藤本 健志
第8回	講義	血液・造血器疾患2 (各論)	藤本 健志
第9回	講義	代謝性疾患1	井手 政利
第10回	講義	代謝性疾患2	井手 政利
第11回	講義	内分泌疾患1 (総論)	井手 政利
第12回	講義	内分泌疾患2 (各論)	井手 政利
第13回	講義	腎・泌尿器疾患1	井手 政利
第14回	講義	腎・泌尿器疾患2、演習問題	井手 政利
第15回	講義	まとめ	井手・藤本

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	前田英治ほか プリント配布	標準 PT・OT シリーズ 内科学 第3版	医学書院
参考資料			

授業科目	整形外科学 II					
担当者	衛藤 正雄	所 属	済生会長崎病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 長崎大学病院、済生会長崎病院などで整形外科医として経験している。臨床現場の経験をもとに整形外科領域における教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	整形外科一般（基礎、診断、治療、リハビリ）
到達目標	整形外科の基礎を学習・理解すること
学生への要望	授業をよく聞き、大切な個所をチェックする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	各論 脊椎・脊髄 構造と機能、外傷	衛藤 正雄
第 2 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 1	衛藤 正雄
第 3 回	講義	各論 脊椎・脊髄 疾患 2	衛藤 正雄
第 4 回	講義	各論 骨盤、慢性疾患	衛藤 正雄
第 5 回	講義	慢性関節疾患、リウマチとその類縁疾患 1	衛藤 正雄
第 6 回	講義	各論 リウマチとその類縁疾患 2	衛藤 正雄
第 7 回	講義	各論 感染症、代謝・内分泌疾患	衛藤 正雄
第 8 回	講義	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症、骨・軟部腫瘍 1	衛藤 正雄
第 9 回	講義	各論 骨・軟部腫瘍 2	衛藤 正雄
第 1 0 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 末梢神経	衛藤 正雄
第 1 1 回	講義	各論 神経疾患・筋疾患 特殊な外傷、脳性麻痺、筋ジストロフィー	衛藤 正雄
第 1 2 回	講義	各論 骨系統疾患、骨壊死疾患および四肢欠損	衛藤 正雄
第 1 3 回	講義	各論 四肢循環障害、四肢切断および四肢欠損	衛藤 正雄
第 1 4 回	講義	まとめ	衛藤 正雄
第 1 5 回	講義	まとめ	衛藤 正雄

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	1 0 0 %	レポート課題	0 %
------------	------	---------	--------	-----

<教科書および参考書>

教科書	高橋邦泰、他	整形外科学テキスト 改訂第 4 版	南江堂
参考資料			

授業科目	神経内科学 II					
担当者	佐藤 聡・富田 逸郎・瀬戸 牧子・ 佐藤 秀代	所 属	長崎北病院			
実務経験者の概要	実務経験(有)長崎北病院で神経内科医師として診療にあたっている。20年にわたり、当校で講義・指導にあたっている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	実地臨床で遭遇することが多い神経内科疾患について、疾患概念、病因、疫学、臨床所見、検査、治療を講義する。
到達目標	理学療法士、作業療法士として知っておくべき神経疾患の知識を習得する。
学生への要望	臨床・介入の場面で遭遇する神経疾患は多いが、ポイントは限られている。総論同様、授業でポイントをつかんで欲しい。また、ノート、メモをしっかりとって欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	脳血管疾患、頭蓋内出血、くも膜下出血	佐藤 聡
第 2 回	講義	脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血発作	佐藤 聡
第 3 回	講義	分水界梗塞、特異な臨床像他、診断、治療	佐藤 聡
第 4 回	講義	脊髄性感覚障害、脊髄疾患	富田 逸郎
第 5 回	講義	脊髄性小脳変性症、MND、BSMA、MS、NMO、ADEM	富田 逸郎
第 6 回	講義	Parkinson 病、PSP、SND、SMA、Fahr 病	富田 逸郎
第 7 回	講義	ジストニー、瀬川病、Wilson、舞蹈病	富田 逸郎
第 8 回	講義	末梢神経障害	富田 逸郎
第 9 回	講義	ミオパチー (筋ジス)	佐藤 聡
第 10 回	講義	ミオパチー (Myotonia)、MELAS、筋無力症、筋炎	佐藤 聡
第 11 回	講義	神経感染症	佐藤 秀代
第 12 回	講義	てんかん、中毒、先天性代謝障害	佐藤 秀代
第 13 回	講義	糖尿病、肝不全、腎不全、排尿障害、リウマチ	瀬戸 牧子
第 14 回	講義	補講、総合講義	富田 逸郎
第 15 回	講義	まとめ	富田 逸郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	奈良 勲	神経内科学 第 4 版 (PT・OT 専門基礎分野)	医学書院
参考資料	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた 神経病学	南山堂

授業科目	臨床医学 I					
担当者	田崎 修・他	所属	長崎大学病院 高度救命救急センター			
実務経験者の概要	実務経験(有) 各々の先生方は、医師として救命救急センターにて臨床を経験している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	前期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	学生諸君が、将来社会に出たとき、或いは明日、眼前で人が倒れたとき、救急処置が行えるよう、必要な知識を習得する。
学生への要望	

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	救急医学領域 1 (救急医療体制)	田崎 修
第 2 回	講義	救急医学領域 2 (心肺蘇生)	村橋 志門
第 3 回	講義	救急医学領域 3 (ショック)	高橋 健介
第 4 回	講義	救急医学領域 4 (外傷)	猪熊 孝実
第 5 回	講義	救急医学領域 5 (敗血症)	太田黒 崇伸
第 6 回	講義	老年期障害学 1	大曲 勝久
第 7 回	講義	老年期障害学 2	大曲 勝久
第 8 回		老年期障害学 3	大曲 勝久

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	配布プリント
参考資料	

授業科目	運動療法総論					
担当者	山内 満	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として急性期の運動器疾患を中心に回復期、生活期、訪問リハビリ、通所リハビリに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	運動療法は理学療法の基盤であり、解剖学や生理学などを背景に展開される。授業では基本的な理論と技術を学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動療法の概念を理解する。 ・運動療法の種類を理解する。 ・基本的運動療法について理解し、技術を実践する。
学生への要望	運動療法の概念を理解し、将来の実践に活かすことを期待する。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	概念：運動と運動療法、理学療法の中の運動療法	山内 満
第2回	講義	基礎理論：関節運動、筋と筋収縮	山内 満
第3回	講義	基礎理論：随意運動と運動制御の生理、運動制御と運動学習	山内 満
第4回	講義	基礎理論：運動と神経	山内 満
第5回	講義	基礎理論：運動と呼吸、運動と循環	山内 満
第6回	講義	基礎理論：運動と代謝、運動の種類	山内 満
第7回	講義	基礎理論の振り返り	山内 満
第8回	講義	基本的運動療法：関節可動域運動	山内 満
第9回	講義	基本的運動療法：筋力増強運動	山内 満
第10回	講義	基本的運動療法：持久力増強運動	山内 満
第11回	講義	基本的運動療法：協調性運動	山内 満
第12回	講義	基本的運動療法：バランス運動	山内 満
第13回	講義	基本的運動療法の振り返り	山内 満
第14回	講義	運動療法の対象の広がり	山内 満
第15回	講義	まとめ	山内 満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	吉尾雅春 標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版 医学書院
参考資料	

授業科目	理学療法評価学Ⅲ					
担当者	韋 傳春・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて理学療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、変性疾患のリハビリテーションを担当。その実務経験を活かし、適切かつ臨床的な内容を講義する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	60 時間	

<内 容>

授業の概要	評価が的確に行われないと、その人に合った効果的な理学療法を行うことは出来ない。本授業では、障害を持つ対象者を多面的に捉えることのできるように基本的な知識と技術について学んでいく。特に評価の意義については重点的に行い、演習についても二人の教員で指導していく。また、臨床の症例がイメージしやすいようにビデオ等の教材も利用する。
到達目標	各種評価について意義を理解し、その方法を身につける。疾患の症状から評価の選択ができるようになる。
学生への要望	評価は理学療法の第一歩である。その第一歩を踏み間違えると、迷い道に入り込みやすい。理学療法評価学演習の反省を踏まえて正確な評価が出来るよう学生同士で積極的に練習して欲しい。練習の際は、実際の対象者に接するつもりで真剣に取り組むこと。評価のやり方だけでなく、その意義をしっかりと理解して欲しい。欠課すると授業についていけなくなる可能性が高い。やむを得ず欠課した場合は自主的に補うこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション 総論・1年次の復習	韋・森
第 2 回	講義	知覚検査①	韋
第 3 回	講義	知覚検査②	韋
第 4 回	演習	知覚検査③	韋
第 5 回	講義	反射検査①	韋
第 6 回	講義	反射検査②	韋
第 7 回	演習	反射検査③	韋
第 8 回	講義	筋トーン検査①	森
第 9 回	講義	筋トーン検査②	森
第 10 回	講義	筋トーン検査③	森
第 11 回	演習	脳神経検査①	森
第 12 回	講義	脳神経検査②	森
第 13 回	講義	脳神経検査③	森
第 14 回	演習	姿勢反射検査①	森
第 15 回	講義	姿勢反射検査②	森
第 16 回	講義	姿勢反射検査③	韋
第 17 回	講義	痛み・整形疾患検査①	韋

第18回	演習	痛み・整形疾患検査②	韋
第19回	講義	痛み・整形疾患検査③	韋
第20回	講義	痛み・整形疾患検査④	韋
第21回	講義	痛み・整形疾患検査⑤	韋
第22回	演習	痛み・整形疾患検査⑥	森
第23回	講義	協調性検査①	森
第24回	演習	協調性検査②	森
第25回	講義	片麻痺機能検査①	韋
第26回	講義	片麻痺機能検査②	韋
第27回	講義	片麻痺機能検査③	韋
第28回	講義	高次機能検査②	森
第29回	講義	高次機能検査②	森
第30回	講義	まとめ	韋・森

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 70% 小テスト 30%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	松澤 正	理学療法評価学 第6版	金原出版
	田崎義昭	ベッドサイドの神経の診かた	南山堂
	医療情報科学研究所	病気がみえる (vol.7) 脳・神経	メヂックメディア
	医療情報科学研究所	病気がみえる (vol.11) 運動器・整形外科	メヂックメディア
参考資料			

授業科目	理学療法評価学演習					
担当者	韋 傳春・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) リハビリテーション病院にて理学療法士として臨床を経験。主に中枢疾患、変性疾患のリハビリテーションを担当。実務経験を活かし、適切かつ臨床的な内容を指導する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	机上での知識・技術を対象者に実践するために学内教育の確認の場として評価学実習を実施している。同学年の評価実習へつなげるものである。対象者の評価を経験することで、後の学習をより現実味のあるものとし、その講義目標を修得していく。
到達目標	評価学実習もしくは模擬症例を設定し、臨床を想定した理学療法評価技術を習得する。
学生への要望	学生間で積極的に練習し、しっかりと準備し実習に臨むこと。①医療人として行動する。②代表的な疾患の障害像をイメージする。③「理学療法評価学」を対象者で体験する。④検査測定時にリスク管理を行う。⑤机上の知識を臨床で応用することの難しさを体験する。以上を経験し、今後の学習に生かす。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	評価学実習準備①	韋・森
第 2 回	演習	評価学実習準備②	韋・森
第 3 回	実習	評価学実習①	韋・森
第 4 回	実習	評価学実習②	韋・森
第 5 回	実習	評価学実習③	韋・森
第 6 回	実習	評価学実習④	韋・森
第 7 回	演習	評価学実習情報交換・準備①	韋・森
第 8 回	演習	評価学実習情報交換・準備②	韋・森
第 9 回	実習	評価学実習⑤	韋・森
第 1 0 回	実習	評価学実習⑥	韋・森
第 1 1 回	実習	評価学実習⑦	韋・森
第 1 2 回	実習	評価学実習⑧	韋・森
第 1 3 回	演習	評価学実習情報交換	韋・森
第 1 4 回	講義	まとめ	韋・森
第 1 5 回	講義	まとめ	韋・森

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	松澤 正 理学療法評価学 第 6 版	金原出版
	奈良 勲 理学療法 臨床実習とケーススタディ 第 3 版	医学書院
参考資料		

授業科目	物理療法Ⅱ					
担当者	森 健次郎・他	所 属	長崎医療技術専門学校			
実務経験者の概要	実務経験(有) 総合病院にて理学療法士として中枢神経系疾患を中心とした急性期から回復期での実務を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	総時間数	60時間	

<内 容>

授業の概要	1 学年で学習した温熱療法、寒冷療法、光線療法を復習し、それ以外の物理療法における生理学的基礎知識、リスク管理、機器の管理について学習・体験する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各物理療法の生理学的作用を理解する。 2. 各物理療法のリスクを想起できるようになる。 3. 生理学的作用、リスクを勘案して、適切な物理療法機器の選択ができるようになる。 4. 各物理療法機器の設定値の意味を理解する。
学生への要望	実習・実験では探求心を発揮して、他科目で学習したことと関連させて深く考察してほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	痛みの生理学	森 健次郎
第2回	講義	痛みの病理学	森 健次郎
第3回	講義	リハビリテーション現場における痛みの評価	森 健次郎
第4回	講義	関節可動域制限①	森 健次郎
第5回	講義	関節可動域制限②	森 健次郎
第6回	講義	振動刺激療法	森 健次郎
第7回	講義	振動刺激療法	森 健次郎
第8回	演習	電気を用いた治療	森 健次郎
第9回	講義	電気刺激療法 (TENS)	森 健次郎
第10回	演習	電気刺激療法 (NMES)	森 健次郎
第11回	講義	電気刺激療法 (イオトフォoresis、ハイフイードバック、創傷治癒)	森 健次郎
第12回	講義	電気刺激療法	森 健次郎
第13回	演習	超音波療法	森 健次郎
第14回	演習	超音波療法	森 健次郎
第15回	講義	水治療法	森 健次郎
第16回	演習	水治療法	森 健次郎
第17回	演習	圧迫療法	森 健次郎
第18回	演習	圧迫療法	森 健次郎
第19回	演習	牽引療法	森 健次郎
第20回	演習	牽引療法	森 健次郎
第21回	演習	体外衝撃波療法	森 健次郎
第22回	演習	実験オリエンテーション	森 健次郎
第23回	演習	実験準備①	森 健次郎

第24回	演習	実験準備②	森 健次郎
第25回	演習	実験準備③	森 健次郎
第26回	演習	実験①	森 健次郎
第27回	演習	実験②	森 健次郎
第28回	演習	発表①	森 健次郎
第29回	演習	発表②	森 健次郎
第30回		まとめ	森 健次郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験70% 課題提出10% 小テスト20%
------------	-------------------------

<教科書および参考書>

教科書	庄本康治	エビデンスから身につける物理療法 (第2版)	羊土社
参考資料	網元 和	標準理学療法学 物理療法学 第4班	医学書院
	千住秀明	物理療法 第2版	神陵文庫

授業科目	義肢装具学 I					
担当者	韋 傳春	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	義肢装具学は装着すべき部位・装具の型・材料・継手の種類とたくさんの項目の中から患者に合ったものを処方しなければならない。この科目では実際に装具を製作したり、装着体験をしながら理解を深める。
到達目標	理論と適切な選択を学ぶ
学生への要望	実際に装具を製作する授業では、単に物を作ることで終わるのではなく、事前に授業した内容を確認しながら進め、制作の際、注意すべきことや失敗しやすいことなどをレポートに残しいつでも振り返せるようにする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	装具の理論	韋 傳春
第 2 回	講義	靴型装具①	韋 傳春
第 3 回	講義	靴型装具②	韋 傳春
第 4 回	演習	足底板製作①	韋 傳春
第 5 回	演習	足底板製作②	韋 傳春
第 6 回	演習	足底板製作③	韋 傳春
第 7 回	演習	疾患別靴型装具	韋 傳春
第 8 回	講義	体幹装具①	韋 傳春
第 9 回	講義	体幹装具②	韋 傳春
第 1 0 回	講義	下肢装具①	韋 傳春
第 1 1 回	講義	下肢装具②	韋 傳春
第 1 2 回	講義	下肢装具③	韋 傳春
第 1 3 回	講義	下肢装具④	韋 傳春
第 1 4 回	演習	下肢装具⑤	韋 傳春
第 1 5 回	講義	まとめ	韋 傳春

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	加倉井周一 義肢装具のチェックポイント 医学書院
参考資料	

授業科目	日常生活活動Ⅱ					
担当者	山内 満	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として、急性期から生活期、訪問リハに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	1年次に学んだ日常生活活動の概要を踏まえ、整形疾患、中枢疾患の特徴に応じた日常生活動作並びに介助方法や指導方法について学び、正常と異常を比較した動作分析を行う。
到達目標	ADL指導に必要な基本的動作について理解できる。 動作指導・運動学習の視点から適切な介助法を理解し、安全に実践することができる。 主な疾患の日常生活動作の特徴を理解する。 疾患や障害と日常生活との関係を理解する。
学生への要望	聞く講義ではなく、考えて理解し、積極的に実技にも参加してほしい。グループワークでも積極的に行動してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	日常生活活動 総論（1年次の確認）	山内 満
第2回	講義	日常生活活動 総論（1年次の確認） Barthel Index・FIM の復習	山内 満
第3回	演習	日常生活活動 総論（1年次の確認） Barthel Index・FIM の練習	山内 満
第4回	講義	動作分析①	山内 満
第5回	講義	動作分析②	山内 満
第6回	講義	整形疾患の日常生活活動①	山内 満
第7回	講義	整形疾患の日常生活活動②	山内 満
第8回	講義	中枢疾患の日常生活活動①	山内 満
第9回	講義	中枢疾患の日常生活活動②	山内 満
第10回	演習	グループワーク①	山内 満
第11回	演習	グループワーク②	山内 満
第12回	演習	グループワーク③	山内 満
第13回	演習	グループ発表①	山内 満
第14回	演習	グループ発表②	山内 満
第15回	講義	まとめ	山内 満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 80% グループ活動・レポート課題 20%
------------	----------------------------

<教科書および参考書>

教科書	鶴見隆正・他 日常生活活動学・生活環境学 医学書院 石井慎一郎 動作分析臨床活用講座～バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社
参考資料	

授業科目	地域理学療法学					
担当者	本多 奨平	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に回復期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	障害のある方や高齢者のリハビリテーションにおいて、対象者の QOL を踏まえながら一貫した支援システムが不可欠である。本講義では、地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識・方法について学習する。
到達目標	1.地域リハビリテーションの概要を理解する 2.介護保険法や障害者総合支援法における理学療法士の役割を理解する。 3.他職種との連携・協働の重要性を理解する。
学生への要望	難しい内容であるが、積極的に参加してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	演習	地域リハビリテーションの関連制度と関連法規	本多 奨平
第 2 回	講義	地域における障害者・高齢者	本多 奨平
第 3 回	講義	通所系理学療法	本多 奨平
第 4 回	講義	訪問系理学療法	本多 奨平
第 5 回	講義	施設での理学療法	本多 奨平
第 6 回	講義	福祉用具とその制度（福祉用具貸与・購入・住宅改修）	本多 奨平
第 7 回	講義	介護予防分野のリハビリテーション（サルコペニアと介護予防） 地域包括ケアシステム	本多 奨平
第 8 回	講義	まとめ	本多 奨平

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% 小テスト 0%
------------	-------------------

<教科書および参考書>

教科書	牧迫飛雄馬・吉村竜貴 最新理学療法学講座 地域理学療法学 医歯薬出版株式会社
参考資料	浅川康吉 Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学 メジカルビュー社 重森健太 PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 羊土社

授業科目	生活環境論					
担当者	山内 満	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として急性期の運動器疾患を中心に回復期、生活期、訪問リハビリ、通所リハビリに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。福祉住環境コーディネーター2級取得。					
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	2単位	
		開講時期	前期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を考えるため、医療や福祉の立場からだけでなく、建築についての知識も幅広く身につけ、様々な専門職と連携を取りながら住宅改修に携わる必要性を学習する。臨床で実際に携わってきた経験を交え、事例を提示しながら講義を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の概念、評価、法的諸制度について理解できる。 生活環境としての住宅と住宅改修について理解ができる。 生活を支える福祉・リハビリテーション関連用具について理解ができる。 地域環境と交通手段について理解ができる。
学生への要望	身体機能や社会的な生活能力と生活環境との関連性について理解を深め、積極的に興味を持って学習に取り組んでほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	生活環境学の概念	山内 満
第2回	講義	生活環境評価の方法、生活環境評価結果の活用方法と指導のポイント	山内 満
第3回	講義	生活環境改善計画の実際	山内 満
第4回	講義	生活環境学と法的制度：社会保障制度	山内 満
第5回	講義	生活環境学と法的制度：介護保険制度	山内 満
第6回	講義	生活環境学と法的制度：障害者保健福祉制度、障害児支援施策	山内 満
第7回	講義	住宅の機能と基本的要件、住まいと障害	山内 満
第8回	講義	住宅改修の基本と進め方	山内 満
第9回	講義	活動と参加に向けた生活支援	山内 満
第10回	講義	生活支援機器	山内 満
第11回	講義	地域環境と交通手段	山内 満
第12回	講義	生活環境演習①	山内 満
第13回	講義	生活環境演習②	山内 満
第14回	講義	福祉住環境コーディネーターの概要、特徴、役割	山内 満
第15回	講義	まとめ	山内 満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	鶴見隆正・他 日常生活活動学・生活環境学 第7版	医学書院
参考資料		

理学療法学科 2年生 後期

授業科目	画像診断学					
担当者	筒井 伸・他	所 属	長崎大学病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 両者とも長崎大学病院などで放射線科医として、勤務している。臨床現場の経験をもとに画像診断や核医学などについて教育・指導を行っている。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	放射線診断学を中心に放射線治療学、核医学を含めて放射線医学全般にわたって、わかりやすく説明します。
到達目標	放射線医学について幅広い知識を習得し、説明することができるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	放射線医学とは	筒井 伸
第 2 回	講義	放射線の種類と性質	筒井 伸
第 3 回	講義	放射線の人体への影響	工藤 崇
第 4 回	講義	放射線診断	筒井 伸
第 5 回	講義	インターヴェンショナルラジオロジー	筒井 伸
第 6 回	講義	放射線治療	中村 太祐
第 7 回	講義	核医学診断	工藤 崇
第 8 回	講義	まとめ	筒井・工藤・中村

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題0%
------------	--------------------

<教科書および参考書>

教科書	青木 学	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	医学書院
参考資料			

授業科目	臨床医学Ⅱ					
担当者	中畑 泰和・他	所 属	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科			
実務経験者の概要	実務経験(有) 兒玉は薬剤師として医療に従事している。荒木は医師として医療に従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	医療従事者として、専門領域以外の臨床医学について幅広い知識と教養を身につけるために、必須専門基礎科目に含まれない他の臨床医学分野について学ぶ。
到達目標	栄養学や薬理学、泌尿器領域の知識を習得して、ある程度説明できるようになる。
学生への要望	特になし

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	栄養学 1	中畑 泰和
第 2 回	講義	栄養学 2	中畑 泰和
第 3 回	講義	栄養学 3	中畑 泰和
第 4 回	講義	薬理学領域 1	兒玉 幸修
第 5 回	講義	薬理学領域 2	兒玉 幸修
第 6 回	講義	薬理学領域 3	兒玉 幸修
第 7 回	講義	腎・泌尿器領域 1	荒木 杏平
第 8 回	講義	腎・泌尿器領域 2	荒木 杏平
第 9 回	講義	腎・泌尿器領域 3	荒木 杏平
第 10 回		まとめ	中畑・兒玉・荒木

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 リハベーシック 生化学・栄養学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	臨床運動学					
担当者	林 勇一郎	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法の治療的側面を意識して身体の構造と運動を講義する。国家試験も考慮し内容を組立てている。
到達目標	正常運動をもとに臨床での患者治療の立場から身体運動を理解する。
学生への要望	基礎運動学・解剖学の知識と実際の運動・疾患との関係をしっかりと理解できるよう、1年次の知識を復習しながら授業に臨んで欲しい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	オリエンテーション、廃用症候群、拘縮、筋の構造と収縮	林 勇一郎
第2回	講義	下肢の運動学①：股関節	林 勇一郎
第3回	講義	下肢の運動学②：膝関節	林 勇一郎
第4回	講義	下肢の運動学①：足関節	林 勇一郎
第5回	講義	上肢の運動学①：肩関節	林 勇一郎
第6回	演習	上肢の運動学②：肘関節	林 勇一郎
第7回	演習	上肢の運動学③：手関節	林 勇一郎
第8回	演習	触診と治療演習①肩甲帯から上肢	林 勇一郎
第9回	演習	触診と治療演習②腰部、臀部、下肢	林 勇一郎
第10回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	弓岡光徳 エッセンシャル・キネシオロジー原著第3版	南江堂
参考資料	坂井建雄 プロメテウス解剖学コアアトラス	医学書院
	visible-body ヒューマン・アナトミー・アトラス	
	中村隆一 基礎運動学	医歯薬出版

授業科目	運動生理学演習					
担当者	林勇一郎・他	所 属	長崎医療技術専門学校			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	三次元動作解析、筋機能解析、呼気ガス分析などの評価測定器具の使用方法、活用方法を学び、卒後研究などに活用してもらいたい。
到達目標	各評価機器から得られるデータの意味を理解する。
学生への要望	時間が少ないため、各自で細かくノートにまとめるようにしてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	筋機能解析装置 (CYBEX) ①	山内
第 2 回	演習	筋機能解析装置 (CYBEX) ②	山内
第 3 回	講義	筋電計・神経伝達速度①	本多
第 4 回	演習	筋電計・神経伝達速度②	本多
第 5 回	講義	三次元動作解析装置①	林
第 6 回	演習	三次元動作解析装置②	林
第 7 回	講義	床反力測定①	林
第 8 回	演習	床反力測定②	林
第 9 回	講義	スパイロメーター①	韋
第 10 回	演習	スパイロメーター②	韋
第 11 回	講義	超音波検査①	韋
第 12 回	演習	超音波検査②	韋
第 13 回	講義	心電図①	山内
第 14 回	演習	心電図②	山内
第 15 回	講義	まとめ	林・山内・韋・ 本多

2 グループに分かれて、同時進行で展開していく。1 つの分野につき 2 回の講義・演習として、順次ローテーションしていく。

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	プリント配布
参考資料	

授業科目	理学療法管理学 I					
担当者	韋 傳春	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。臨床では主任や指導的立場を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	15 時間	

<内 容>

授業の概要	理学療法士にとって、臨床に関する知識や技術を習得することは当然のこととして、得られた知識や技術を患者に提供する際に必要な管理、すなわちマネジメントできる能力も求められる時代である。理学療法概論の中で触れた「管理」をより具体的に理解・認識する。
到達目標	実習はもとより、それぞれの現場で活躍する際にも活かされる知識の習得を目指す。
学生への要望	管理学を学ぶことで、臨床実習の際、スタッフがどのような目的で行動しているのか感じて欲しい。

<講義計画>

回数		内 容	担当
第 1 回	講義	管理・マネジメントの概観	韋 傳春
第 2 回	講義	理学療法管理学とは	韋 傳春
第 3 回	講義	理学療法士の職業倫理	韋 傳春
第 4 回	講義	組織運営とマネジメント	韋 傳春
第 5 回	講義	理学療法士の職場管理	韋 傳春
第 6 回	講義	理学療法業務のマネジメント	韋 傳春
第 7 回	講義	振り返り	韋 傳春
第 8 回	講義	まとめ	韋 傳春

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	奈良 勲 理学療法管理学	医歯薬出版株式会社
参考資料		

授業科目	中枢疾患運動療法 I					
担当者	林 勇一郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	本科目では、主として脳卒中の障害像を学び、脳卒中に対する理学療法の考え方と、具体的なアプローチについて学習する。脳卒中の病態とリスク管理、評価、理学療法プログラム、動作分析について理解する。脳卒中の急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法について学習して、臨床実習に向けての知識や技術に繋がるように意識する。
到達目標	1. 脳の構造および中枢神経疾患の病態が理解できる。 2. 急性期・回復期・生活期などそれぞれの時期に応じた理学療法が理解できる。 3. 脳卒中の病態・障害に対して、理学療法評価と治療プログラムの立案ができる。
学生への要望	定期的に小テストで到達度を確認するので、单元ごとに復習するようにしてもらいたい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	中枢神経系理学療法総論	林 勇一郎
第 2 回	講義	脳の画像解剖、臨床症状	林 勇一郎
第 3 回	講義	脳画像所見(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳腫瘍など)	林 勇一郎
第 4 回	講義	脳卒中の回復メカニズム	林 勇一郎
第 5 回	講義	脳卒中の障害構造	林 勇一郎
第 6 回	講義	脳卒中患者の理学療法①	林 勇一郎
第 7 回	講義	脳卒中患者の理学療法②	林 勇一郎
第 8 回	講義	高次脳機能障害の病態と評価方法	林 勇一郎
第 9 回	講義	摂食・嚥下障害のリハビリテーション	林 勇一郎
第 10 回	講義	まとめ	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100% レポート課題 0%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	潮見泰藏	PT・OTビジュアルテキスト神経障害理学療法学	羊土社
参考資料	潮見泰藏	ビジュアル実践的脳・神経系リハビリテーション	羊土社
	医療情報科学研究所	病気がみえる (vol.7) 脳・神経	メディアックメディア

授業科目	中枢疾患運動療法Ⅱ					
担当者	森 健次郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 総合病院にて理学療法士として中枢神経系疾患を中心とした急性期から回復期での実務を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	パーキンソニズムと失調症を中心に、障害像を捉えた上で、それらに対する基本的な理学療法を、講義と演習により学習する。またビデオなども用い疾患の総合的理解を深める。
到達目標	パーキンソニズムと失調症に対する運動療法を理解する。
学生への要望	身近な日常生活活動を意識し講義内容と結び付けながら現実的に理解して欲しい。また、実習には真剣に取り組んで欲しい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション パーキンソニズムの概要と分類	森 健次郎
第 2 回	講義	パーキンソニズムの障害の特徴	森 健次郎
第 3 回	講義	パーキンソニズムへの理学療法アプローチについて	森 健次郎
第 4 回	演習	実技演習 パーキンソニズムの理学療法①	森 健次郎
第 5 回	演習	実技演習 パーキンソニズムの理学療法②	森 健次郎
第 6 回	講義	失調症の概要と障害分類	森 健次郎
第 7 回	講義	失調症に対する特異的な訓練法について	森 健次郎
第 8 回	演習	失調症の理学療法①	森 健次郎
第 9 回	演習	失調症の理学療法②	森 健次郎
第 10 回	講義	まとめ	森 健次郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	潮見泰藏	PT・OT ビジュアルテキスト神経障害理学療法学	羊土社
参考資料	小森哲夫	神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ	メジカルビュー社

授業科目	内部疾患運動療法					
担当者	鋤崎 利貴	所 属	長崎大学病院リハビリテーション部			
実務経験者の概要	実務経験(有) 大学病院にて理学療法士として臨床を経験。整形、脳血管・神経疾患の担当経験もあるが主に呼吸・循環器疾患を担当している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	内部疾患による障害は外見ではわからないためか、重視されにくい。しかし疾患によっては、生命の危機に及ぶものもある。理学療法士にとって対象疾患になる場合はこれまで少なかったかもしれないが、最近では注目されつつある。病態を理解したうえで、理学療法プログラムを組み立てる。
到達目標	病態を理解する必要性が分かるようになること。評価・プログラムの目的を理解できるようになること
学生への要望	わからないことは質問をするようにしてください。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	呼吸器系の構造及び疾患	鋤崎 利貴
第 2 回	講義	呼吸器系の理学療法①	鋤崎 利貴
第 3 回	講義	呼吸器系の理学療法②	鋤崎 利貴
第 4 回	講義	呼吸器系の理学療法③	鋤崎 利貴
第 5 回	講義	循環器系の構造及び疾患	鋤崎 利貴
第 6 回	講義	循環器系の理学療法	鋤崎 利貴
第 7 回	講義	授業内容の復習①	鋤崎 利貴
第 8 回	講義	糖尿病について	鋤崎 利貴
第 9 回	講義	腎機能障害について	鋤崎 利貴
第 10 回	講義	まとめ	鋤崎 利貴

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	松尾善美 編	PT・OTビジュアルテキスト内部障害理学療法学	羊土社
参考資料	呼吸リハビリテーションマニュアル—運動療法—第2版		株式会社照林社

授業科目	神経筋疾患運動療法					
担当者	森 健次郎	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 総合病院にて理学療法士として中枢神経系疾患を中心とした急性期から回復期での実務を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	代表的な神経筋疾患の特徴を理解し、各疾患の病態に基づいた適切な理学療法の検査・測定、リスク管理、評価および治療プログラム立案までの過程を学習する。
到達目標	中枢神経系の構造と機能についての基礎知識を整理し、障害について説明できるようになる。 また、疾患から生じる機能障害および能力障害の評価方法や、治療までの一連の流れを理解できるようになる。
学生への要望	各疾患の特徴を理解し、疾患のイメージを早期に作れるようにしてほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	神経障害と理学療法	森 健次郎
第2回	講義	脊髄損傷	森 健次郎
第3回	講義	筋萎縮性側索硬化症	森 健次郎
第4回	講義	多発性硬化症	森 健次郎
第5回	講義	ニューロパチーとギラン・バレー症候群	森 健次郎
第6回	講義	末梢神経損傷	森 健次郎
第7回	講義	筋ジストロフィー（先天性・進行性）	森 健次郎
第8回	講義	多発性筋炎・皮膚筋炎	森 健次郎
第9回	講義	重症筋無力症	森 健次郎
第10回	講義	まとめ	森 健次郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	潮見泰藏 PT・OTビジュアルテキスト神経障害理学療法学	羊土社
参考資料	岡庭 豊 病気がみえる Vol.7 脳・神経	メイツメディア

授業科目	小児疾患運動療法					
担当者	浦川 純二	所 属	長崎県島原病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 小児リハビリテーション病院・施設を中心に急性期病院や更生訓練施設等での臨床と、補装具・身体障害者手帳の判定および高次脳機能障害者支援業務等を行政職として経験しており、包括的な視野から講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	脳性麻痺など発達障害を中心に小児整形疾患に対する理解を深め、理学療法評価および運動療法の基礎的概念を概説する。発達については反射・反応・姿勢・運動などの変化の意味合いを理解し、認知や社会面などの発達との関連にも触れながら講義を進める。事例を通して、障害のある子どもと家族に対する理学療法の役割を知る。また、小児疾患を取り巻く医療・福祉・教育・就労などの社会的側面にも触れ、理学療法を展開する上での課題を捉える視点も学ぶ。小児に接するレディネス修得を目標にする。
到達目標	小児疾患の障害像を理解し、評価および基本的な治療方針を策定することができる。
学生への要望	臨床像の把握、典型的な治療例について、画像、VTR 等の視聴覚教材を多用するため、動作分析や記録方法については復習しておくこと。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	小児理学療法総論	浦川 純二
第 2 回	講義	運動発達に関する反射・反応と運動学	浦川 純二
第 3 回	講義	発達障害児の障害像と評価・運動療法	浦川 純二
第 4 回	講義	脳性麻痺の障害像	浦川 純二
第 5 回	講義	脳性麻痺に対する理学療法評価	浦川 純二
第 6 回	講義	脳性麻痺に対する理学療法評価（評価・典型例動作分析・ハンドリング・環境調整）	浦川 純二
第 7 回	講義	脳性麻痺に対する理学療法 1	浦川 純二
第 8 回	講義	脳性麻痺に対する理学療法 2	浦川 純二
第 9 回	講義	その他の小児疾患に対する理学療法	浦川 純二
第 1 0 回	講義	その他の小児疾患に対する理学療法・まとめ	浦川 純二

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 1 0 0 %
------------	--------------

<教科書および参考書>

教科書	細田多穂・監 シンプル PT 学シリーズ 小児理学療法テキスト	南江堂
参考資料		

授業科目	整形疾患運動療法					
担当者	山内 満	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として急性期の運動器疾患を中心に回復期、生活期、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	20 時間	

<内 容>

授業の概要	骨関節理学療法は、個別の運動器である関節や筋に対する治療手技を基盤としている。また、神経系理学療法と双璧をなす重要な分野であるとともに、他のすべての領域の基礎と考えられることも多い。関節や軟部組織の評価と治療は、理学療法の全分野において共通の課題であり、その基礎を学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨関節疾患に対する理学療法の考え方が理解できる。 骨関節疾患に対する理学療法の実践が理解できる。 疼痛疾患の理学療法について理解できる。 高齢者の理学療法について理解できる。
学生への要望	運動器に対する理学療法技術は基本となるため、積極的に授業に参加してほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	骨関節疾患に対する理学療法の考え方	山内 満
第2回	演習	理学療法の実践：骨折・脱臼の理学療法	山内 満
第3回	演習	理学療法の実践：膝靭帯、半月板損傷の理学療法	山内 満
第4回	講義	理学療法の実践：腱断裂の理学療法	山内 満
第5回	演習	理学療法の実践：関節リウマチの理学療法	山内 満
第6回	演習	理学療法の実践：変形性関節症と人工関節置換術の理学療法	山内 満
第7回	講義	理学療法の実践：足部・足関節の理学療法	山内 満
第8回	演習	理学療法の実践：骨端症、頸椎疾患、腰部脊柱管狭窄症、側弯症の理学療法	山内 満
第9回	演習	疼痛疾患の理学療法、高齢者の理学療法	山内 満
第10回	講義	まとめ	山内 満

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	吉尾雅春 標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 第2版 医学書院
参考資料	高橋邦泰・他 整形外科学テキスト改訂第5版 南江堂
	岡庭 豊 病気がみえる運動器・整形外科 vol.11 メディックメディア

授業科目	スポーツリハビリテーション					
担当者	能 由美	所 属	motto Assist			
実務経験者の概要	実務経験(有) 実務経験(有) 整形外科クリニック、スポーツクリニック、スポーツ現場(チームスポーツ、個人帯同、大会運営)など約20年の臨床経験あり、その経験を活かし講義、実技指導を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	総時間数	20時間	

<内 容>

授業の概要	スポーツ外傷・障害に対するリハビリテーションについて知識を整理する。 スポーツ現場に必要な評価と救急処置、実際のリハビリテーションプログラムを体験する。 各部位ごとの評価とプログラムを整理し、必要に応じて選択できるようにする。
到達目標	スポーツ外傷に対して評価、問題点抽出し、ゴールを設定して具体的にプログラム作成・指導をできるようになる。スポーツ現場における救急対応の流れを把握できるようになる。
学生への要望	解剖学、運動学、整形外科評価に関して知識を整理して授業に取り組んでほしい。

<講義計画>

回数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	膝関節疾患の評価とプログラム① 実習前	能 由美
第2回	講義	膝関節疾患の評価とプログラム② 実習前	能 由美
第3回	講義	スポーツ外傷・障害の救急処置方法	能 由美
第4回	講義	膝関節疾患の評価とプログラム③	能 由美
第5回	講義	腰部疾患の評価とプログラム①	能 由美
第6回	講義	腰部疾患の評価とプログラム②	能 由美
第7回	講義	肩関節疾患の評価とプログラム	能 由美
第8回	講義	足関節・足部疾患の評価とプログラム	能 由美
第9回	講義	動作スクリーニング・柔軟性・アライメント評価など	能 由美
第10回	講義	まとめ	能 由美

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験	100%
------------	------	------

<教科書および参考書>

教科書	臨床スポーツ医学編集委員会 スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 文光堂
参考資料	

授業科目	義肢装具学Ⅱ					
担当者	韋 傳春	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	臨床現場にて高齢者医療から整形外科、福祉分野を経験。その幅広い経験から臨床とつながる講義を実施する。					
学科名	理学療法学科	学 年	2	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	30 時間	

<内 容>

授業の概要	義肢装具学は装着すべき部位・装具の型・材料・継手の種類とたくさんの項目の中から患者に合ったものを処方しなければならない。この科目では実際に装具を製作したり、装着体験をしながら理解を深める。
到達目標	理論と適切な選択を学ぶ
学生への要望	実際に装具を製作する授業では、単に物を作ることで終わるのではなく、事前に授業した内容を確認しながら進め、制作の際、注意すべきことや失敗しやすいことなどをレポートに残しいつでも振り返るようにする。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	演習	プラスチック短下肢装具製作①	韋 傳春
第2回	演習	プラスチック短下肢装具製作②	韋 傳春
第3回	演習	プラスチック短下肢装具製作③	韋 傳春
第4回	演習	プラスチック短下肢装具製作④	韋 傳春
第5回	演習	プラスチック短下肢装具製作⑤	韋 傳春
第6回	講義	プラスチック短下肢装具製作⑥	韋 傳春
第7回	講義	上肢装具①	韋 傳春
第8回	講義	上肢装具②	韋 傳春
第9回	講義	義肢学①	韋 傳春
第10回	講義	義肢学②	韋 傳春
第11回	講義	義肢学③	韋 傳春
第12回	講義	義肢学④	韋 傳春
第13回	講義	義肢学⑤	韋 傳春
第14回	演習	義肢学⑥	韋 傳春
第15回	講義	まとめ	韋 傳春

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 90% レポート課題 10%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	加倉井周一 義肢装具のチェックポイント	医学書院
参考資料		

授業科目	総合学習 I					
担当者	林 勇一郎・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 0 時間	

<内 容>

授業の概要	文献抄読を通し、新しい知識に触れるとともに、1 学年で学習した研究方法をより理解することに繋げる。国家試験の問題の内容や範囲を理解する。
到達目標	文献抄読の流れを理解し他者に興味のある分野の説明ができる。国家試験の問題に触れ、現在の能力を把握し苦手な分野に気付くことができる。
学生への要望	自ら探求心を持って自発的に取り組んで欲しい。国家試験対策では多数の教科書から答えとなる解説を学んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション、国家試験対策準備	林 勇一郎
第 2 回	講義	実習報告会	韋・森・林 山内・本多
第 3 回	講義	実習報告会、文献検索	韋・森・林 山内・本多
第 4 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第 5 回	講義	文献検索	韋・森・林 山内・本多
第 6 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第 7 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第 8 回	講義	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第 9 回	講義	模擬テスト(共通 50 問)	林 勇一郎
第 1 0 回	講義	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第 1 1 回	講義	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第 1 2 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第 1 3 回	演習	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第 1 4 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第 1 5 回	講義	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第 1 6 回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎

第17回	講義	文献発表	韋・森・林 山内・本多
第18回	講義	文献発表	韋・森・林 山内・本多
第19回	講義	総合学習Ⅰ定期試験	山内 満
第20回	講義	抄録作成	韋・森・林 山内・本多
第21回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第22回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第23回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第24回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第25回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第26回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第27回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第28回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第29回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎
第30回	講義	国家試験対策班別学習	林 勇一郎

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 40% レポート課題 60%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第3版 配布資料	南江堂
参考資料	第56回～第60回 国家試験問題	

授業科目	総合治療論 I					
担当者	林 勇一郎・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として中枢神経疾患や運動器疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。新生児のリハビリテーションや通所リハビリにも従事している。					
学科名	理学療法学科	学 年	2年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	総時間数	30時間	

<内 容>

授業の概要	評価から全体像の把握までの一連の過程を経験する評価実習に向け、「理学療法評価学」や「評価学演習」で学んだ知識・技術を基礎に、少人数のグループによる演習などでその内容を再学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な評価の知識と技術を身につける 実習時に必要な評価項目の意義を考えることができる
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	評価・測定①	韋
第2回	講義	評価・測定②	韋
第3回	講義	肩関節周囲の触診	林
第4回	講義	股関節周囲の触診	林
第5回	講義	デイリーノートの書き方	林
第6回	講義	評価演習 (ROM・MMT)	山内・本多
第7回	講義	リスク管理	山内
第8回	講義	臨床に活かせる解剖①	韋
第9回	講義	臨床に活かせる解剖②	韋
第10回	講義	症例検討 (運動器疾患) ①	山内
第11回	講義	症例検討 (運動器疾患) ②	山内
第12回	講義	症例検討 (神経疾患) ①	森
第13回	講義	症例検討 (神経疾患) ②	森
第14回	講義	トランスファーについて	森・本多
第15回	講義	評価演習総括	林

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅱ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有・無)					
学科名	理学療法学科	学 年	2 年	総単位数	7 単位	
		開講時期	後期	総時間数	3 1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	<p>診療録等からの間接的情報収集や対象者への直接的情報収集(検査・測定等)を通じて、対象者の状態等に関する評価を実施する。学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましく、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施することを学ぶ。さらに、得られた情報から障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。</p> <p>本臨床実習は、理学療法の評価・治療に関する基本的な知識および技術が育まれた後に実施する。見学・模倣体験を通して、理学療法を行う上で必要な評価・治療に関する技術を深めていく。また、医療人として求められる態度を理解し、責任感を持って行動できることを目的とする。</p>
到達目標	<p>第1期の時は、学内にて理学療法の評価方法に関する基本的な知識および技術を学んでおり、第2期の時は、運動療法・物理療法の知識および技術を学んでいる。学生個々の経験値や到達度に応じて、段階的な行動目標を設定することが望まれる。基本的な技術や認知スキルの経験値をできるだけ高め、助言や指導の下に自力で「実施」できることを増やしていく。</p>
学生への要望	<p>臨床での教育は、理学療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。</p>

<講義計画>

<p>臨床実習オリエンテーション</p> <p>(実習) 1期: 3週間、2期: 4週間</p> <p>行動目標:</p> <p>①職業人としての習慣・態度・業務理解を深める。</p> <p>②処方や指示内容から情報を読み取る経験をする。</p> <p>③対象者に即した情報収集を経験する。</p> <p>④対象者に即した検査・測定の過程を体験する。</p> <p>⑤対象者に即したリスク管理を考慮し、検査・測定を体験する。</p> <p>⑥収集した情報を分析ができ、対象者の全体像を把握するための心理的過程を経験する。</p> <p>⑦可能であれば、対象者に応じた目標設定と理学療法プログラムを体験する。</p> <p>(演習) 課題提出と実習報告会</p>
--

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 60% 実習後評価 40%
------------	--------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

理学療法学科 3年生

授業科目	理学療法評価学IV					
担当者	森 健次郎・他	所属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 総合病院にて理学療法士として中枢神経系疾患を中心とした急性期から回復期での実務を経験。					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	臨床実習に向け、必要となる知識と技術を習得する。できるだけ実践的な臨床実習場면을想定し口頭試問や実技演習を行う。最終的には OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) を実施する。
到達目標	臨床実習で必要となる実践的な知識と技術を習得する。
学生への要望	コミュニケーションなどの声掛けから、主体的に実技演習を行ってほしい。また、撮影動画を確認し自己修正に励んでほしい。

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1 回	講義	オリエンテーション 中枢疾患の患者に対する PBL (Problem Based Learning) ①	林
第 2 回	講義	中枢疾患の患者に対する PBL (Problem Based Learning) ②	林
第 3 回	講義	中枢疾患の患者に対する PBL (Problem Based Learning) ③	林
第 4 回	講義	中枢疾患の患者に対する PBL (Problem Based Learning) ④	森
第 5 回	講義	中枢疾患の患者に対する PBL (") ⑤	森
第 6 回	講義	中枢疾患の患者に対する PBL (") ⑥	森
第 7 回	講義	整形疾患の患者に対する PBL (Problem Based Learning) ①	韋
第 8 回	講義	整形疾患の患者に対する PBL (") ②	韋
第 9 回	講義	整形疾患の患者に対する PBL (") ③	韋
第 1 0 回	講義	まとめ、OSCE	PT 教員

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	理学療法管理学Ⅱ					
担当者	本多 奨平・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や神経筋疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。訪問リハビリテーションでの勤務経験もある。					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
		開講時期	前期	総時間数	1 5 時間	

<内 容>

授業の概要	組織における理学療法士の役割や診療録の記載方法と管理、リスクマネジメントなどを学び、病院や介護施設で働くうえで必要となる制度や規則などを学び、臨床実習に臨むための心構えを養う。
到達目標	実習や臨床現場で必要とされる診療報酬や保険制度を理解する。
学生への要望	積極的に発言してほしい

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	地域包括ケアシステムについて	本多 奨平
第2回	講義	医療・介護保険制度、診療・介護報酬と収益①	本多 奨平
第3回	講義	医療・介護保険制度、診療・介護報酬と収益②	本多 奨平
第4回	講義	リスクマネジメント①	山内 満
第5回	講義	リスクマネジメント②	山内 満
第6回	講義	診療記録の書き方、大切さ	中島 龍星
第7回	講義	組織の中での理学療法士の役割①	小川 弘孝
第8回	講義	組織の中での理学療法士の役割②	小川 弘孝
第9回	講義	車椅子の選択とシーティング	淡野 義長

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 0% レポート課題 100%
------------	---------------------

<教科書および参考書>

教科書	なし
参考資料	なし

授業科目	総合治療論Ⅱ					
担当者	山内 満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として、急性期から生活期、訪問リハに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	前期	総時間数	5 0 時間	

<内 容>

授業の概要	評価から治療までの一連の過程を経験する総合臨床実習に向け、各疾患における評価・治療について学び、その内容をデイリーノートにまとめていく。
到達目標	理学療法における各段階での臨床思考，技術を学ぶ 各疾患における評価方法や治療方法を学ぶ
学生への要望	復習を必ずすること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第 1-2 回	講義	呼吸器・循環器のリハビリテーション	鋤崎 利貴
第 3-4 回	講義	関節モビライゼーションの基本と整形疾患への応用	笹原 順哉
第 5-6 回	講義	脳卒中患者の評価と治療	松尾 晶子
第 7-8 回	講義	肩関節疾患の理学療法	田中 康明
第 9-10 回	講義	腰痛の評価と治療	南 ももこ
第 11-12 回	講義	パーキンソン患者の評価と治療	本多 歩美
第 13-14 回	講義	検査画像の見方	岡 一
第 15-16 回	講義	高齢期の理学療法	高倉 潤一
第 17 回	講義	デイリーの書き方	林 勇一郎
第 18-19 回	講義	中枢疾患領域の臨床推論	林 勇一郎
第 20-21 回	講義	整形疾患領域の臨床推論	山内 満
第 22-23 回	講義	失語症・運動障害性構音障害（摂食嚥下含む）	竹中 千尋
第 24-25 回	講義	PT・OT のための気道吸引	白石 昌子

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題 100%
------------	-------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	総合学習Ⅱ					
担当者	山内 満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として、急性期から生活期、訪問リハに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	8 0 時間	

<内 容>

授業の概要	国家試験で必要とされる知識について、繰り返し学習する機会を設け、知識の整理と理解を促す。また、模擬試験棟を活用し、より実践的な環境の下で時間配分や集中力の持続など国家試験に向けた準備を構築していく。
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

病理学	疾患別 (脊損)
生理学	疾患別 (神経)
脊髄損傷	ADL
発達障害	物理療法
臨床医学 (内科,外科)"	疾患別 (CVA) 疾患別 (整形)
運動学	疾患別 (整形)
解剖学	疾患別 (小児)
心電図の診かた	PT 評価
整形外科学	疾患別 (画像)
臨床心理学	精神医学
介護保険・法律関係①	身体障害(高次脳)
介護保険・法律関係②	
義肢装具学	

<評価方法>

成績評価・方法・基準	定期試験 100%
------------	-----------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎 PT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 PT 治療学	医歯薬出版
参考資料		

授業科目	総合学習Ⅲ					
担当者	山内 満・他	所 属	長崎医療技術専門学校 専任教員			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として、急性期から生活期、訪問リハに至るまで従事している。また、学校現場における教育にも従事している					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	2 単位	
		開講時期	後期	総時間数	8 0 時間	

<内 容>

授業の概要	
到達目標	国家試験合格レベル
学生への要望	国家試験に直結する知識であり、積極的に不足している知識の獲得に努めること。

<講義計画>

<p>国家試験出題範囲について、小グループでの学習やペア学習をしながら学んでいく。 模擬試験やクラス模試を通して、学習の到達状況を把握して、弱点を克服できるように進めていく。 わからないキーワードを抽出して、テキスト等を使用して、ポスター作成をする。 そのポスターを用いながら、グループ内で説明して知識をアウトプットする。 出来るだけ、声に出して説明して、説明を受ける側も必ず復唱するように声を出すように意識する。</p>

<評価方法>

成績評価・方法・基準	試験 40%	レポート課題・活動点 60%
------------	--------	----------------

<教科書および参考書>

教科書	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 臨床医学	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 基礎 PT	医歯薬出版
	PTOT 国家試験必修ポイント 2027 PT 治療学	医歯薬出版
参考資料	オリジナル資料	

授業科目	地域リハビリテーション論					
担当者	田原 靖子・他	所 属	長崎リハビリテーション病院			
実務経験者の概要	実務経験(有) 理学療法士として脳血管疾患や整形疾患を中心に急性期から生活期に至るまで経験している。					
学科名	理学療法学科	学 年	3年	総単位数	1単位	
		開講時期	後期	総時間数	15時間	

<内 容>

授業の概要	地域リハビリテーションの実際の展開と理学療法士や作業療法士の活躍を学び理解する。
到達目標	理学療法士や作業療法士の地域リハビリテーションにおける役割を説明できること
学生への要望	講義で学んだことを整理して記録すること

<講義計画>

回 数	授業形態	内 容	担 当
第1回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割①	飯野 朋彦
第2回	講義	介護老人保健施設でのセラピストの役割②	飯野 朋彦
第3回	講義	訪問リハビリテーションの現状①	本多 奨平
第4回	講義	訪問リハビリテーションの現状②	本多 奨平
第5回	講義	通所系サービスにおけるセラピストの役割①	田原 靖子
第6回	講義	通所系サービスにおけるセラピストの役割②	田原 靖子
第7回	講義	児童発達支援事業の現状①	兼元 博康
第8回	講義	児童発達支援事業の現状②	兼元 博康

<評価方法>

成績評価・方法・基準	レポート課題100%
------------	------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅲ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 6 単位	
		開講時期	前期	総時間数	7 2 0 時間	

<内 容>

授業の概要	<p>評価実習の内容に加え、対象者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定等を学ぶ。学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましく、様々な疾患・状態の対象者を数多く経験し、経過の観察を通じて理学療法の効果を学ぶ。また、診療録等の記載方法やカンファレンスへの参加など、様々な理学療法業務についても理解を深める。臨床実習前後での評価による事前準備や臨床実習による成長度合いを確認する。</p>
到達目標	<p>臨床実習はセラピストの生涯教育の一過程であり、卒後の OJT へシームレスに繋げていくことが重要である。各期ごとに画一的な目標設定を行うのではなく、学生個々の経験値や到達度に応じて、段階的な行動目標を設定することが望まれる。基本的な技術や認知スキルの経験値をできるだけ高め、助言や指導の下に自力で「実施」できることを増やしていくこと。</p>
学生への要望	<p>臨床での教育は、理学療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。</p>

<講義計画>

<p>臨床実習オリエンテーション (実習) 1期：8週間、2期：8週間 目標： ①職業人としての習慣・態度・業務理解を深める。 ②対象者に即した評価の過程を体験する。 ③対象者に即した理学療法の治療・対応計画の立案を体験する。 ④対象者に即した理学療法の治療と経過を体験する。 ⑤卒後に継続して積極的に学ぶ姿勢と方法を習得する。</p> <p>(演習) 課題提出と実習報告会</p>
--

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 50% レポート課題 50%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	

授業科目	臨床実習Ⅳ					
担当者		所 属				
実務経験者の概要	実務経験(有)					
学科名	理学療法学科	学 年	3 年	総単位数	1 単位	
	作業療法学科	開講時期	後期	総時間数	4 5 時間	

<内 容>

授業の概要	地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法・作業療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設(市町村保健センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、医療機関の在宅訪問指導、障害者施設等)での見学実習を通して学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業所の地域活動に参加できる。 2. 職員、対象者に対して適切なコミュニケーションがとれ、訪問に必要な態度を形成する。 3. 各事業所で提供しているサービス内容を把握できる。 4. 各事業所での理学療法士・作業療法士の業務内容と役割を理解できる。 5. 理学療法・作業療法の実施を補助できる。
学生への要望	臨床での教育は、理学療法士・作業療法士という専門職を目指す学生にとって貴重な経験だが、その場は対象者の方々の協力と先輩である専門職の方々の好意によって提供されていることを認識しておくこと。

<講義計画>

<p>実習オリエンテーション</p> <p>(実習) 5日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数グループに分かれて、1事業所を体験する。 ・各事業所における地域活動に参加する。 ・訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを経験する。 ・介護保険サービスにおける目標設定やプログラム立案などを経験する。 ・理学療法士や作業療法士の業務を経験する。 <p>(演習) 課題提出と実習報告会</p>

<評価方法>

成績評価・方法・基準	臨床実習指導者の評価 30% レポート課題 70%
------------	---------------------------

<教科書および参考書>

教科書	
参考資料	